令和 4 (2022)年度

シラバス

- 2 年次 -

科目No.	BCS05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	教育学 I		担当教員 E-Mail	中村 俊介 nakamatsus@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	選択必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学 言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校で1年間(保健体育)、専門学校で13年間(トレーニング理論等)の勤務経験のある教員がその経験を生かして、学校現場にて実施されている教育を踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	臨床現場においてセラピストは、後輩、他職種、患者と家族、実習生など、様々な対象者に教育を行う場面に遭遇する。本講義では、教育学の教養について教育原論や教育心理学を中心に概説し、教育学の基本的な内容を理解する。					
学修目標 到達目標	1. 教育における意義や目的と捉え方、具体的な教育の内容や教授方法を説明できる 2. 教育評価の考え方、活用方法を説明できる 3. 心身の発達と学習過程、学習目標と動機づけなどを説明できる					
対面授業の 進め方	講義形式にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft Teams を利用して時間割と同時刻にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。その場合、毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション：教育とは			復習：教育の種類や効果をまとめる			
2. 教育現場：教師と教員、生徒と学生、学校と社会、他			復習：教育関係者の役割をまとめる			
3. 教員の資質・能力：教員業務 教科指導、評価、学生指導、生活指導			復習：教員に求められる資質をまとめる			
4. 教育課程：カリキュラム、シラバス、講義、実習、演習、他			復習：教育の流れをまとめる			
5. 指導方法・学習方式①：対話法、実物教授、直感教授、他			復習：教育の歴史をまとめる			
6. 指導方法・学習方式②：講義形式、討論形式、調査形式、他			復習：目的と学習方式の関係性をまとめる			
7. 教育評価①：診断的評価、形成的評価、総括的評価、他			復習：評価の種類、目的をまとめる			
8. 教育評価②：学習者評価、プログラム評価、他			復習：評価の実際についてまとめる			
9. 教育媒体：教育環境、教育機器、他			復習：実践的な教育環境をまとめる			
10. 発達学習論：発育曲線、発達段階区分、オペラントの条件付け、他			復習：発育と学習の関係性をまとめる			
11. 学習のプロセス：知的メカニズム、メタ認知、他			復習：学習のプロセスをまとめる			
12. 記憶のメカニズム：記憶と忘却、短期記憶と長期記憶、他			復習：記憶の種類をまとめる			
13. モチベーション：外発的・内発的動機、コンピテンスと効力感、他			復習：動機づけの概念をまとめる			
14. パーソナリティ：類型論、階層構造、他			復習：パーソナリティの類型をまとめる			
定期試験						
15. 総括、及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			定期試験で不正解の内容を復習する			
成績 評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	指定した講義内容について講義内で小テストを2回実施し、理解度を評価する。		期末試験にて講義全体の理解度を評価する。		

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	なし				
参考図書	橋本太朗、他	新教育原論		酒井書店	2004
	藤田哲也	絶対役立つ教育心理学		ミネルヴァ書房	2007
履修要件等	なし				
研究室	3号館2階 第26研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:30		

科目No.	BNS03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	医療統計学		担当教員 E-Mail	中谷 勇哉		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	自然科学系	必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	EBM(根拠にもとづいた医療)を行うため、また卒業研究等を行う前提知識として、統計学の基礎と医療分野での活用法について学習する。このことにより、本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な統計手法の意味や意図を理解できる 2. 医療分野における統計を根拠とした議論に対し、その妥当性を検討することができる 3. 医療分野における統計学的知識の重要性と限界について説明できる 					
対面授業の 進め方	基本的に座学だが、2回の演習を行う。高校数学のデータ分析・確率・統計分野を復習しておくことと理解に役立つ。教科書は特に指定しないが、各自で参考文献を参照し予復習すること。特に、仮説検定・推定の基本的な考え方については繰り返し復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、stream上に授業動画をアップロードする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション・研究手法（講義の目的等について）			復習: EBMの重要性についてまとめること			
2. 統計の基礎1（要約統計量、平均、分散、標準偏差）			復習: 統計量の計算に慣れておくこと			
3. 統計の基礎2（サンプリング、標本、中心極限定理）			復習: 中心極限定理についてまとめること			
4. 仮説検定1（z検定、t検定）			復習: z検定・t検定の計算に慣れておくこと			
5. 仮説検定2（カイ2乗検定）			復習: カイ2乗検定の計算に慣れておくこと			
6. 仮説検定3（演習）			予習: 検定の考え方に慣れておくこと			
7. 推定（区間推定）			復習: 区間推定の計算に慣れておくこと			
8. 定期試験及びフィードバック			復習: 試験で誤答した部分をまとめること			
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト 30 %	☐ レポート %	☐ 定期試験 70 %	☐ その他 %	
	基準等	講義内で小テストを2回行い、理解度を評価する。		定期試験において講義内容全般について理解度を問う。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	五十嵐中ほか	「医療統計」わかりません!!		東京図書	2010	
参考図書	白砂堤津耶	「例題で学ぶ初歩からの統計学」 第2版		日本評論社	2015	
	履修要件等					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BFL03-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	医療英語		担当教員 E-Mail	岡田 守弘 okadam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	外国語系		選択必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学 言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	米国ミシガン大学医学部で2年以上勤務経験のある教員が、医療英語について講義する					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>英語は医学の分野においても世界の共通語であり、最新の知見や研究成果は英語で発信されることが一般的である。また、医療現場においても医学用語は英語で表現されることは少なくない。このため、医学英語に精通しておくことは医療人として重要である。本講座では、臨床現場における実践的な英語力を養う。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で患者さんと基本的な医療面接ができる。 2. 臨床現場で用いられる基本的な医学英語を理解できる。 3. 基本的な英語による医学情報を理解できる。 					
対面授業の 進め方	医療現場を想定した場面でのアクティブラーニング型授業を行う。テキストをベースに患者役と医療者役に分かれて英語でロールプレイを行う。このため、リスニングおよびテキストの音読練習による十分な予習が授業参加への前提条件となる。授業には英和辞書（電子辞書も可）を持参すること。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる双方向の授業を行う。					
授業計画		授業時間外に必要な学修				60分以上
1. Fever (p2~13)		指定された音声データを各自でダウンロードし、リスニングと音読練習を行う。				
2. Anemia (p14~25)		指定された音声データを各自でダウンロードし、リスニングと音読練習を行う。				
3. Dehydration (p26~35)		指定された音声データを各自でダウンロードし、リスニングと音読練習を行う。				
4. Obesity (p36~47)		指定された音声データを各自でダウンロードし、リスニングと音読練習を行う。				
5. Dysphasia (p96~107)		指定された音声データを各自でダウンロードし、リスニングと音読練習を行う。				
6. Fracture (p120~133)		指定された音声データを各自でダウンロードし、リスニングと音読練習を行う。				
7. Pregnancy (p134~146)		指定された音声データを各自でダウンロードし、リスニングと音読練習を行う。				
定期試験(期末レポート)						
8. 総括(フィードバック)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70 %		■その他 30 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業の参加態度にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	日本医学英語教育学会	医学・医療学生のための総合医学英語テキスト		メディカルビュー社	2016	
参考図書	特に指定しない					

履修要件等	英文法、英文購読、一般臨床医学を履修しておくことが望ましい		
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10

科目No.	FBM11-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	形態・機能学特論解剖領域		担当教員 E-Mail	後藤 隆洋 gotot@kawasakigakuen.ac.jp 大箆 友博 ohgomorit@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		選択必修	1 単位	前期 (16h)
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	第1年次に学習した解剖学座学および生理学など関連科目の知識を基礎として、人体の構造と機能の関連性に注目してさらに深い理解ができるようにする。主に中枢神経系に焦点を当てて、苦手領域を克服する。また循環器や泌尿器などの3次元的理解が必要な領域についても焦点を当てる。臨床で登場する場面の提示や国家試験に対する展望などの工夫をこらし講義する。これら基礎医学の本質的領域の修得は、臨床医学系の専門科目の理解、延いては医療従事者としての社会的貢献への基盤として極めて有用である。					
学修目標 到達目標	1. 中枢神経のマクロ・ミクロ形態、発生学的な神経系のなりたちを理解する。また、伝導路を正確に理解することができる。さらに反射との違いを理解することができる。 2. 心臓、血管およびリンパ系の構造と機能を理解することができる。 3. 尿の生成と排泄に関する器官の構造とその機能を理解することができる。 4. 栄養の代謝経路や呼吸器の理解を通じて、循環系の機能について理解することができる。					
対面授業の 進め方	臨床解剖学方式で講義する。各器官が目的とする機能を果たすために最適の構造ができあがっているかを関連付ける。そのために、アクティブラーニング手法による。医学用語を確実に理解（書ける、読める）し、基礎知識をしっかりと固めるように努める。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365のTeamsやStreamを使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 大脳基底核（レンズ核、扁桃核、前障、尾状核）と脳室系				前年度の授業内容の復習		
2. 錐体路、錐体外路、運動の制御と反射経路				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
3. 上行性伝導路と固有感覚路				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
4. 神経組織の基本構造・脳神経の機能・神経内分泌				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
5. 血液・リンパ液・髄液の関係、脳および心臓への血液供給と関連 血管、硬膜静脈洞、リンパ系（リンパ節の構造・機能、胸管の走行と循環、リンパの働きと免疫）				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
6. 消化管の基本構造、胃腺構成細胞の働き、小腸と大腸の構成・作用の違い、肝臓の機能と門脈系、腹膜の構成と配置				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
7. 腎臓の構造（腎小体、尿細管、集合管）と尿生成メカニズム、尿排泄調節（畜尿・排尿メカニズム）				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 %	
	基準等	毎回の授業中に実施する小テストや課題（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を90%換算する。		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版」	医学書院	2020
参考図書	寺島俊雄	「神経解剖学講義ノート」	金芳堂	2011
	井出千束	臨床神経解剖学	医歯薬出版	2013
履修要件等	「形態機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ」を履修済であること			
研究室	1号館5階 第12研究室 (後藤) 1号館5階 第8研究室 (大籠)	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10~13:00 (後藤) 毎週木曜日 12:00~13:00 (大籠)	

科目No.	FCM01-2R, FCM02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	小児科学		担当教員 E-Mail	末永智浩 他 和歌山県立医科大学 小児科学教室講師			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	前期(16h)		
	作業療法学						
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学					
教員の実務経験と授業内容の関連	大学病院で実臨床にあたっている教員がその経験を活かして、小児疾患の病態、疾患への対応や治療・管理について基本的な考え方を講義する。						
授業内容の要約	小児領域においてもリハビリテーションはなくてはならないものであるが、良質のリハビリテーションを提供するためには疾患を有する児への理解が欠かせない。その理解を深めるのが本講義の主たる目的である。						
学修目標 到達目標	1. 小児のこと（身体面、精神面ともに）を理解することができる 2. 小児を学ぶことで成人、老人への理解を深めることができる 3. 発達障害など成人へ移行する諸問題を理解することができる						
対面授業の 進め方							
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 teams を使用した Live 配信授業を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 消化器・腎疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
2. 神経・筋・骨系疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
3. 小児の発達			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
4. 心身医学・虐待・重症心身障害児			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
5. 循環器			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
6. 新生児・未熟児			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
7. 血液疾患・腫瘍			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
8. 感染症・感染予防			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。				
定期試験（期末レポート）							
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☐ 定期試験 90 %	☐ その他 10 %
	基準等					ペーパーテスト	授業への参加度も加味。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	富田 豊	小児科学			医学書院	2018年	
参考図書	特に指定しない						
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	FCM02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学 I		担当教員 E-Mail	岡田 守弘 okadam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	前期(30h)
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連	大学附属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で25年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学の基本的な概念を修得できる 2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる 3. 循環器、呼吸器、消化器領域の基本的な画像診断ができる 4. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる 					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	対面授業が困難な場合、TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 内科学総論・症候学① (教科書 p2~54)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 症候学② (教科書 p38~54)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 循環器疾患① (教科書 p55~100)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 循環器疾患②、画像診断 (教科書 p55~100)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 循環器疾患③ (教科書 p55~100)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 循環器疾患④ (教科書 p55~100)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 呼吸器疾患① (教科書 p102~141)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 呼吸器疾患②、画像診断 (教科書 p102~141)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 呼吸器疾患③ (教科書 p102~141)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 消化器疾患① (教科書 p142~173)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 消化器疾患②、画像診断 (教科書 p142~173)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 消化器疾患③ (教科書 p142~173)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 肝・胆・膵疾患① (教科書 p174~200)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 肝・胆・膵疾患② (教科書 p174~00)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	☐ レポート	■定期試験 80 %		■その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	奈良勲ほか	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版	医学書院	2020
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10	

科目No.	FCM03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学（含老年医学）（S T）		担当教員 E-Mail	岡田 守弘 okadam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	前期（30h）
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で25年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して言語聴覚学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の言語聴覚学の発展に寄与することを期待する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学の基本的な概念を修得できる 2. 言語聴覚学における内科学の必要性を知ることができる 3. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる 					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 内科学総論・症候学（教科書 p1~24）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
2. 循環器疾患①（教科書 p89~166）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
3. 循環器疾患②（教科書 p89~166）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
4. 呼吸器疾患①（教科書 p25~88）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
5. 呼吸器疾患②（教科書 p25~88）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
6. 消化器疾患①（教科書 p167~222）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
7. 消化器疾患②（教科書 p167~222）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
8. 肝・胆・膵疾患（教科書 p223~276）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
9. 血液・造血器疾患（教科書 p471~506）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
10. 代謝疾患（教科書 p277~310）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
11. 内分泌疾患（教科書 p311~346）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
12. 腎・泌尿器疾患（教科書 p347~406）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
13. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全（教科書 p507~548）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
14. 感染症（教科書 p549~580）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	浅野嘉延	なるほどなっとく内科学 第2版	南山堂	2020
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10	

科目No.	FCM03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学Ⅱ		担当教員 E-Mail	岡田 守弘 okadam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連	大学附属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で25年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学の基本的な概念を修得できる 2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる 3. 基本的な栄養学的重要性を理解し、臨床現場で活用できる。 4. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる 					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 血液・造血器疾患①(教科書 p201~227)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 血液・造血器疾患②(教科書 p201~227)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 血液・造血器疾患③(教科書 p201~227)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 代謝疾患、栄養学基礎①(教科書 p228~250)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 代謝疾患②(教科書 p228~250)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 内分泌疾患①(教科書 p251~269)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 内分泌疾患②(教科書 p251~269)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 腎・泌尿器疾患①(教科書 p270~296)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 腎・泌尿器疾患②(教科書 p270~296)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全①(教科書 p297~320)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全②(教科書 p297~320)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 感染症①(教科書 p321~339)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 感染症②(教科書 p321~339)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 感染症③(教科書 p321~339)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト%	□レポート%	■定期試験 80%	■その他 20%	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	奈良勲ほか	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版	医学書院	2020
参考図書	特に指定しない			
履修要件等				
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10	

科目No.	FCM05-2R, FCM09-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	神経内科学		担当教員 E-Mail	出田 淳		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	前期(30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と授業内容の関連	神経内科疾患の診断治療臨床経験 33年の教員が、実際の臨床現場の神経疾患を講義する。					
授業内容の要約	神経解剖、神経生理、神経薬理、分子遺伝学の理解の上に、神経症候学、神経部位診断、数々の神経筋疾患について学び、神経疾患の知識と理解を深め、療法士としての素地を作る。					
学修目標 到達目標	1. 神経解剖、神経生理、神経薬理、分子遺伝学を説明できる 2. 神経症候学、診断学を理解し、患者さんの神経所見の評価ができる 3. 各神経疾患につき病因、症候、診断、治療についての系統的に説明できる					
対面授業の 進め方	教科書中心の内容をパワーポイント使用にて授業を行う。 第1回より最終講義まで互いに関連した内容であるため、可能な限りの聴講が必須である。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論) 神経疾患とリハビリ・神経解剖学の基礎 (教科書 pp.1-16)			神経疾患とリハビリをノートにまとめる			
2. 総論) 神経解剖学の基礎・神経薬理学の基礎 (教科書 pp.17-29)			神経解剖学・薬理学の基礎をノートにまとめる			
3. 総論) 分子遺伝学・神経系の発達と加齢 (教科書 pp.30-58)			左記の内容をノートにまとめる			
4. 神経診断学) 神経診断学とは・意識障害・高次脳機能障害 (教科書 pp.59-74)			意識障害・高次脳機能障害をノートにまとめる			
5. 神経診断学) 脳神経 (教科書 pp.75-85)			1番から12番の脳神経をノートにまとめる			
6. 神経診断学) 運動系・感覚系 (教科書 pp.86-104)			運動・感覚系をノートにまとめる			
7. 神経診断学) 自律神経・反射・検査法 (教科書 pp.105-133)			自律神経・反射・検査法をノートにまとめる			
8. 中間試験 (教科書 pp.1-133)			試験範囲の再確認			
9. 神経診断学) 変性疾患 (パーキンソン病) (教科書 pp.161-180)			錐体外路疾患をノートにまとめる			
10. 神経診断学) 変性疾患 (脊髄小脳変性症と運動ニューロン病) (教科書 pp.181-201)			脊髄小脳変性症と運動ニューロン病をノートにまとめる			
11. 神経診断学) 脱髄疾患・末梢神経障害 (教科書 pp.202-223)			脱髄疾患と末梢神経障害をノートにまとめる			
12. 神経診断学) 筋疾患・神経筋接合部疾患 (重症筋無力症) (教科書 pp.224-243)			筋疾患・神経筋接合部疾患 (重症筋無力症) をノートにまとめる			
13. 神経診断学) 脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺 (教科書 pp.251-286)			脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺をノートにまとめる			
14. 神経診断学) 外傷・自律神経疾患・機能的疾患・認知症 (教科書 pp.298-339)			外傷・自律神経疾患・機能的疾患・認知症をノートにまとめる			
定期試験 (教科書 pp.1-133 pp.161-243 pp.251-339)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			神経内科学を振り返り、今後の学習計画を立案			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			定期試験 (中間試験・期末試験)		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	江藤文夫他	「神経内科学テキスト」改訂第4版		南江堂	2017年	
参考図書	なし					

履修要件等			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	FCM06-2R, FCM10-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	臨床神経学		担当教員 E-Mail	新谷 亜紀			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	後期(30h)		
	作業療法学						
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学					
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で脳神経外科医として臨床勤務経験のある教員がその経験を生かして臨床神経学についての講義を行う。						
授業内容の要約	神経解剖・機能を再理解、再認識し、臨床に応用すべく、諸疾患（その発生病因と症状並びに診断）、諸検査（頭部CT、MRI等）、諸治療について学習する。神経内科学で学んだ知識を再確認するとともに脳神経外科学的アプローチでも認知する。						
学修目標 到達目標	1. 脳・脊髄・末梢神経の解剖、生理が確実に理解できる→2.に繋げる。 2. 神経疾患の症状と診断、治療が理解できる→臨床実習等において知識を体得する。 3. セラピストという職に夢と誇りを持つべく、自主的に学習できる						
対面授業の 進め方	パワーポイント中心に説明する。資料は配布するが、自ら考える授業にする。授業内容については自宅でその日のうちに復習し、理解できなかった部分を整理する						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上	
1. 神経系の解剖・生理の再理解 1			解剖学・生理学を予復習				
2. 神経系の解剖・生理の再理解 2			同上				
3. 神経系の解剖・生理の再理解 3			同上				
4. 脳血管障害（くも膜下出血）			神経内科学で学んだ症状・診断の予復習				
5. 脳血管障害（脳出血）			くも膜下出血との違いを調べる				
6. 脳血管障害（脳梗塞 1 病型分類と診断）			神経内科学で学んだ症状・診断の予復習				
7. 脳血管障害（脳梗塞 2 治療）			脳梗塞の治療の予復習				
8. 頭部外傷			硬膜外と硬膜下の解剖学的位置関係を復習				
9. 脳腫瘍 1			良性腫瘍と悪性腫瘍の種類を調べる				
10. 脳腫瘍 2			9.で学んだことをしっかり復習する				
11. 神経変性疾患 1			神経内科学で学修したことを復習				
12. 神経変性疾患 2			同上				
13. 神経変性疾患 3			同上				
14. 末梢神経疾患、筋疾患			同上				
定期試験（期末レポート）							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☒ 定期試験 100 %	☐ その他 %
	基準等					授業の内容全般についての理解度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	特になし	左に同じ		左に同じ			
参考図書	医療情報科学研究所	病気がみえる<vol.7>脳・神経		メディックメディア		2017年	
	永井知代子	ビジュアル臨床神経学		医歯薬出版株式会社		2021年	

履修要件等			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	FCM07-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	整形外科学		担当教員 E-Mail	金澤 元宣		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	前期(30h)	
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連	りんくう総合医療センターにて、整形外科医として診療を行っている。この経験を活かして、必要な知識についての講義を行う。					
授業内容の要約	本講義では運動器の働きを中心となる骨、関節、筋、神経の機能や病態との関係について学び、診断や治療へ結びつける。また、関節リウマチと類似疾患、慢性関節疾患、代謝性骨疾患、先天性骨系統疾患、骨・軟部腫瘍など疾患総論についても学修する。					
学修目標 到達目標	1. 整形外科的診断法および検査法について理解できる 2. 運動器疾患の病態、症状、治療法が理解できる 3. 整形外科分野における全身性疾患について理解できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントを中心として参考資料としてプリントを配布する					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 解剖、整形外科総論			左記授業後、復習をする			
2. 外傷1			左記授業後、復習をする			
3. 外傷2			左記授業後、復習をする			
4. 外傷3			左記授業後、復習をする			
5. 関節疾患1			左記授業後、復習をする			
6. 関節疾患2			左記授業後、復習をする			
7. 背椎疾患1			左記授業後、復習をする			
8. 背椎疾患2			左記授業後、復習をする			
9. リウマチ疾患			左記授業後、復習をする			
10. 小児疾患			左記授業後、復習をする			
11. 感染性疾患			左記授業後、復習をする			
12. 腫瘍性疾患			左記授業後、復習をする			
13. 整形外科各論1			左記授業後、復習をする			
14. 整形外科各論2			左記授業後、復習をする			
定期試験(期末レポート)						
15. 整形外科各論3						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☒ 定期試験 100 %		☐ その他 %
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	奈良勲	整形外科学 第4版 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野		医学書院	2017	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM08-2E		授業形態	講義	開講年次	2 年次	
授業科目名	整形外科科学特論		担当教員 E-Mail	中川幸洋 延與良夫 前田孝浩 原田悌志 玉井英伸			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	後期 (16h)	
	作業療法学						
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、整形外科医の立場から講義する。						
授業内容の要約	本講義では、将来臨床の場においてよく関わる疾患を中心に、その病態、診断、治療法について教示する。専門的な理学、作業療法学を学ぶ上での基礎となるので、十分に理解を深めること。臨床で頻度の高い運動器における主要疾患や外傷の発症機序、症状、検査、治療、その臨床成績などについて解説する。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 膝関節、足関節、足部の構造や疾患、外傷について説明できる 2. 外傷学については、主な骨折の特徴、治療法について説明できる 3. スポーツ傷害の発生機序、治療法を説明できる 4. 脊椎疾患、脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷を理解する 5. 上肢疾患、股関節疾患を理解する 						
対面授業の 進め方	パワーポイントを中心に参考資料としてプリントを配布						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30 分以上	
1. 高齢化社会における整形外科疾患、低侵襲手術について				講義内容の復習			
2. 人工関節の進歩 大腿骨頭壊死 整形外科における超音波の応用				講義内容の復習			
3. 慢性腰痛、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、等				講義内容の復習			
4. 骨折治療と術後管理・早期リハ				講義内容の復習			
5. 骨粗鬆症および骨粗鬆症性脆弱性骨折の疫学、診断と治療				講義内容の復習			
6. 頸髄症、脊柱靭帯骨化症、脊椎脊髄損傷、等				講義内容の復習			
7. ロコモティブシンドローム サルコペニア、フレイル、等				講義内容の復習			
定期試験 (期末レポート)							
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☐ 定期試験 70%	☐ その他 30%
	基準等					講義内容全般についての理解度を評価する	出席および授業態度の評価
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	井樋 栄二ほか	標準整形外科学 第14 版		医学書院		2020	
参考図書	特に指定しない						
履修要件等							
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM12-2E, FCM01-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	リハビリテーション医学		担当教員 E-Mail	梅本 安則		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	選択必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学	必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、リハビリテーション医の立場から講義する。					
授業内容の要約	リハビリテーション医療が必要とされるさまざまな疾患を中心に、病態、症状、診断、治療について概説する。その理解の上に立って、障害の評価、リハビリテーションプログラムについて学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. <u>疾患の病態、症状、診断法が理解できる</u> 2. <u>障害の評価ができる</u> 3. <u>障害に対するリハビリテーションプログラムが立てられる</u>					
対面授業の 進め方	基本はPower Pointと配布資料で行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 teamsを使用したLive配信授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. リハビリテーション概論(リハビリテーションの理念、健康と障害の概念、リハビリの流れ、チーム医療・編成)			学修した範囲について復習を必ずすること			
2. リハビリテーションのための基礎知識(解剖学、生理学など)			学修した範囲について復習を必ずすること			
3. 障害の評価(筋力、ROM、呼吸循環、排泄、歩行障害・装具学、ADL、高次脳機能障害、摂食嚥下障害など)			学修した範囲について復習を必ずすること			
4. 領域別;脳卒中(脳血管疾患)、運動器疾患			学修した範囲について復習を必ずすること			
5. 領域別;脊髄損傷、神経筋疾患			学修した範囲について復習を必ずすること			
6. 領域別;内部疾患(循環器・呼吸器疾患・がんなど)			学修した範囲について復習を必ずすること			
7. 領域別;小児・切断・スポーツ医学(障害運動教育)など			学修した範囲について復習を必ずすること			
8. リハビリテーション医療のこれまでとこれから			学修した範囲について復習を必ずすること			
定期試験(期末レポート)						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☒ 定期試験 100%		☐ その他 %
	基準等			全講義の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	日本リハビリテーション医学会	リハビリテーション医学・医療コアテキスト		医学書院	2018	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM13-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	産業医学		担当教員 E-Mail	岡田 守弘 okadam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	選択必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	民間企業、大学病院、教育機関等で労働者の健康管理に関わる産業医として10年以上経験のある教員が、産業医学について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>産業医学とは、労働環境や作業条件と、働く人々の健康との関わりを追求する医学である。近年、労働者の健康対策を行う産業保健分野において、理学療法士の参画が期待されている。本講座では、労働者の健康状態の評価、および職場での健康保持増進のための就業措置、支援、関係法令等について解説する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健スタッフに必要な基本的な関係法令が理解できる。 2. 労働者の健康状態が評価できる。 3. 産業保健スタッフに必要な職場での健康保持増進対策を理解できる。 					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 最近の産業保健トピックス (テキスト p4~13)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 職場の労働衛生管理体制 (テキスト p14~30)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 職場における健康障害防止対策の基本 (テキスト p31~61)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 職場における健康障害防止対策の基本 (テキスト p31~61)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 健康の保持増進・健康診断 (テキスト p62~88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 健康の保持増進・ストレスチェック (テキスト p62~88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 健康の保持増進・その他 (テキスト p62~88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 定期試験			学修した範囲について復習を必ずすること			
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	☐ 定期試験 80%	☐ その他 20%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	森 晃爾	改訂19版 産業保健ハンドブック (産業保健ハンドブックシリーズ1)		労働調査会	2021	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10		

科目No.	FCM14-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	薬理学特論		担当教員 E-Mail	池内 治平		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と授業内容の関連	病院薬剤師の実務経験を基に、薬の効き方と理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法と、薬理学全般における基礎知識、疾患の系統別に作用する薬物についての解説と役割を教育する。					
授業内容の要約	病気の治療の一つとして薬物が使用されている。薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し、身体を正常な状態にひきもどす、その一方、副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある。この講義では、薬物の働く仕組みだけでなく、その有効な作用を発揮できるかを学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と投与方法(剤形、投与経路)を説明できる。 2. 薬物の主作用と副作用と有害事象の違いについて説明できる。 3. 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。 					
対面授業の 進め方	教科書及び配付資料による講義形式 筆記試験を行い、授業内容の理解度を評価し、可否の判定を行う。 ただ暗記するのではなく、体の仕組みと薬理作用の関係、疾患との関係をよく理解しましょう。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論(1):薬物治療のめざすもの 使用目的			講義資料および参考書などを用いて復習すると共に、レポート作成を通じて自ら調べることにより授業内容の理解を深めること。			
2. 総論(2):薬理学の基本的な事項(薬物の主な作用点、薬物の投与						
3. 総論(3):薬物の体内動態(薬物の吸収、分布、代謝、排泄)						
4. 総論(4):薬物に影響する因子(生体の相互作用、薬物相互作用)						
5. 総論(5):薬物中毒と法令(薬物の適量、医薬品に関する法令)						
6. 抗炎症薬と化学療法薬: 非ステロイド性抗炎症薬、抗菌薬、抗癌薬などの治療薬について						
7. 免疫・アレルギー薬・消毒薬:アレルギー反応、ステロイド、 殺菌、消毒						
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☒ 定期試験 100%	☐ その他 %	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を総合評価します。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	大鹿 英世/吉岡 充 弘/井関 健	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬 理学」		医学書院	2014	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	特にないが、生物学を履修済であることが望ましい。					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM15-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	栄養学特論		担当教員 E-Mail	中野 忠雄		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で管理栄養士として臨床経験のある教員が、その経験を活かしてチーム医療における栄養管理の基本的な知識と手法、病態別栄養管理のポイントについて講義を行う。					
授業内容の要約	日本における生活習慣病の誘因となっている背景と栄養状態に関する問題を理解する。栄養管理をチーム医療のもと効率よく行うため、メディカルスタッフとして栄養と身体の関わり、疾病との関連を理解しそれぞれの業務に活かせるようにする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の種類と役割が理解できる 2. 栄養状態の評価と病態別の栄養管理のポイントが理解できる。 3. 健康づくりと食生活について、国の施策が理解できる。 4. 栄養についての知識を自己の日常生活で実践でき、患者の療養支援ができる。 					
対面授業の 進め方	教科書、配布資料に沿った対面式授業を行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔での授業開講になる場合は、teams を使用し、音声入りパワーポイントを用いて開講時間に配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			
1. 栄養の基礎（栄養素の消化吸収、口腔の働き）（参考資料配布）			予習：授業の教科書範囲を熟読すること			
2. リハビリテーションと栄養、低栄養時の代謝（教科書 p2～14）			復習：自宅にて1時間程度毎回復習すること			
3. 運動栄養学とリハ、リハ栄養チームにおける PT・OT・ST の役割			3.は（教科書 p 15～30）			
4. リハ栄養ケアプロセスとは（p32～37）・小テスト						
5. リハ栄養アセスメント・診断推論（p38～57）						
6. リハ栄養診断、リハ栄養ゴールの設定（p58～70）・小テスト						
7. リハ栄養介入、リハ栄養モニタリング（p71～78）						
定期試験						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 70%	□その他 10%
	基準等	授業内に2回小テストを実施し、授業内容についての理解度を評価する。			授業内容についての定期試験を実施し、理解度を評価する	授業態度（授業への意欲、質問、発表態度など）を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	若林秀隆	PT・OT・ST のためのリハビリテーション栄養（第3版）		医歯薬出版	2020	
配布資料						
参考図書	脊山洋右	コンパクト栄養学（改訂第4版）		南江堂	2017	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM16-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	画像診断学特論		担当教員 E-Mail	岡田 守弘 okadam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と授業内容の関連	大学病院および急性期総合病院で勤務経験のある内科、脳神経外科、整形外科の各教員が、画像診断学について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>医療現場では、X線、超音波、CT、MRIなどの画像診断は頻りに用いられ、PT、OT、STにとってもこれらの各種画像の概要を理解することは重要である。本講座では、内科、脳神経外科、整形外科の各専門医が、それぞれの専門領域の画像診断について解説する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. X線検査(=レントゲン検査)、X線CT検査による画像診断法を理解する 2. MRI画像検査法の理論と実際を理解する 3. 超音波検査の方法と応用、内視鏡、核医学検査を理解する 					
対面授業の 進め方	授業を通じて、画像の紹介と読影実習を行い、理解を深めていく 画像の紹介と読影実習については、質疑応答を行いながら進める					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 画像診断法(X線、CT、MRI、超音波検査の理論)				復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
2. 画像解剖(頭部)・画像診断(頭部疾患)				復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
3. 画像解剖(頭部)・画像診断(頭部疾患)				復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
4. 画像解剖(脊椎)・画像診断(脊椎・脊髄)				復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
5. 画像解剖(上肢・下肢)・画像診断(四肢)				復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
6. 画像解剖(胸部)・画像診断(胸部)				復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
7. 画像解剖(腹部)・画像診断(腹部・消化管)				復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)		
8. 定期試験(期末レポート)						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	☐ 定期試験 80%	☐ その他 20%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	水間正澄/川手信行	リハビリテーション医療に活かす画像のみかた			南江堂	2019
参考図書						
履修要件等	特になし					
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SRP03-2E, SRO04-2E, SRM03-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	地域支援フィールドワーク		担当教員 E-Mail	久利 彩子 ・ 田崎 文江 hisaria@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1 単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	障がい者を有する患者の地域生活における支援に携わった経験と専門知識を持つものが、地域支援の基礎について、フィールドワークを通じて指導する。					
授業内容の要約	当該授業は、「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」人材育成に重点を置く。学外の組織と連携し、当該組織の主に地域における移動についての問題解決に主体的に関与する。学外の組織と連携し、関与した事象に関する情報誌を作成する。					
学修目標 到達目標	1. 地域生活に重要な視点について、障がい者の視点から考えることができるようになる。 2. 世代間や異職種間の交流を通じ、問題解決能力とコミュニケーション能力を育む。 3. 関与した事象に関する情報発信スキルを育む。					
対面授業の 進め方	当該授業は、ディスカッションや本学地域周辺でのフィールドワークを行う。また、得られた情報を集約して、第三者に伝える資料も作成する。学外の組織と連携し、当該組織の問題解決に主体的に関与する。通常授業時間以外（土曜日）に開講予定。					
遠隔授業の 進め方	当該授業は、office365teams 等、「非接触・非対面」型のコミュニケーションツールを通じ、主に本学地域周辺における移動その他の問題に主体的に関与する。また、得られた情報を集約して、第三者に伝える資料も作成する。学外の組織と連携し、通常授業時間以外に開講。 ※2022 年度開講日：2022 年 5/21（土）、5/28（土）、6/4（土）、6/11（土）（予備）いずれも 1～5 限。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
(第1日目)				授業中の自らの行動を振り返り、次の授業のためにどのようにしたらより良い内容となるか、しっかり考えること。		
1. オリエンテーションと学内演習1（地域生活と車いすについて）						
2. グループディスカッション1（フィールドワークコース選択、等のフィールドワーク1,2の計画立案）						
3. フィールドワーク1（各グループによるフィールドワーク1）						
4. フィールドワーク2（各グループによるフィールドワーク2）						
5. 学内演習2（フィールドワーク1、2のまとめ）						
(第2日目)						
6. 学内演習3（学内演習2のプレゼンテーションと、フィールドワーク3,4の計画立案）						
7. フィールドワーク3（各グループによるフィールドワーク3）						
8. フィールドワーク4（各グループによるフィールドワーク4）						
9. 学内演習4（フィールドワーク3,4のまとめ）						

10. 学内演習 5 (フィールドワーク 3,4 のまとめ)					
(第 3 日目)					
11. 学内演習 6 (学内演習 4,5 のプレゼンテーションと、フィールドワーク 5,6 の計画立案)					
12. フィールドワーク 5 (各グループによるフィールドワーク 5)					
13. フィールドワーク 6 (各グループによるフィールドワーク 6)					
14. 学内演習 7 (フィールドワーク 5,6 のまとめ)					
15. 授業のまとめ					
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☐ 定期試験 %	☐ その他 100 %
	基準等				各個人に割り当てられたテーマに関するプレゼンテーションおよび、授業への参加状況や取り組み姿勢などを総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特に指定しない				
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	フィールドワークを主軸とする授業のため、天候によっては延期する場合がある。学外の組織と協調して授業を進行する。世代間交流や異職種間交流がある。気配り目配り心配りがとても重要である。物事への探究心も必須。交通費の一部は大学が支援する。フィールドワークを伴うため、履修学生人数に上限を設ける (15 名程度)。				
研究室	久利：1 号館 5 階 第 9 研究室 田崎：1 号館 5 階 第 2 共同研究室	オフィスアワー	久利：毎週火曜日 12：20～12：50 田崎：毎週火曜日 12：00～13：00		

科目No.	SRP07-2E, SRO08-2E, SRM09-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	アロマセラピー		担当教員 E-Mail	武田 ひとみ		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>ディプロマポリシーの態度、思考力の一つである「医療の高度化や変化する時代に対応し、医療従事者として生涯にわたり、知識や技能を研鑽することができる人」として、各専攻の知識、技術のみならず、疾患の治療、痛みやストレスの緩和等に役立つ補完・代替療法のひとつでもあり、セルフケアの方法でもあるアロマセラピーについて正しい知識を身につける。</p> <p>アロマセラピーとは何なのか？どのように心身に作用するのかについて正しく理解し、簡単な実習を通じてセルフケアとしてのその手法を体験する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アロマセラピーについて正しい知識を身につける 2. ストレスに関連した心身の不調について理解する 3. 簡単なアロマセラピーの手法を体験する 4. 補完・代替療法への利用において精油選択の方法を知る 					
対面授業の 進め方	<p>短期間なので基礎理論の理解のための講義中心。授業内作成提出物や次回までの実習に必要な課題もある。必ずテキストを準備し、授業時は集中し、課題は必ずやってくること。</p> <p>受講学生は生理学を既に習得し、十分理解している状態であることが望ましい。アロマセラピーをたった二日間で完全に理解することは不可能であるが、安全にアロマセラピーを利用するための基礎知識は習得させたい。</p>					
遠隔授業の 進め方						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. アロマセラピーを学ぶとはどういうことか				授業内で指示された課題を完成させておくこと		
2. 精油とはなにか。精油各論						
3. 精油の体内への経路、作用について(基礎的な生理学の復習含む)						
4. アロマセラピーのいろいろな手法。手法の一つを体験(エアフレッシュナー作成)						
5. ストレス反応について(神経系、内分泌系の復習含む)						
6. コンサルテーションとトリートメントについて						
7. コンサルテーションロールプレイとカルテ作成						
8. カルテに基づくブレンドオイル作成、症例検討						
定期試験(期末レポート)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 80%	□定期試験 %	■その他 10%	
	基準等	実習で使用する質問紙の作成課題(二回目の授業時に持参)	コンサルテーションロールプレイと実際のブレンドオイル作成後の複数のレポート		実習態度、授業時の質疑応答	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	-	アロマセラピー検定 公式テキスト (2020年6月改定版1級2級対応最新版)		世界文化社	2020	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室			授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SRP05-2E, SRO06-2E, SRM07-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	認知症ケア学		担当教員 E-Mail	石川 健二 ishikawak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関や地域でのケアサービスに従事した臨床経験のある教員が、その経験を生かして認知症に関する病態やケアについて講義する					
授業内容の要約	認知症ケアの基本理念「尊厳の保持」「生活主体」「その人らしさ」「エンパワメント」をふまえた、基本的知識を理解する。また、認知症の病態に応じたケアの仕方を学ぶ、					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアの基本理念を理解し、説明することができる 2. 認知症の基本的な症状と特徴を理解し、説明することができる 3. 病態に応じた介入及び、ケアの仕方を学ぶ 					
対面授業の 進め方	講義、演習、課題により、認知症ケアについての理解を進めていく 個々の生活を構成している要素を体験させ、想像・考えることができるように進める					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 認知症ケアの概念とは				教科書を读了しておく		
2. 認知症の症状と特徴を知る① 病態の鑑別と症状				前回授業内容の理解を深めておく		
3. 認知症の症状と特徴を知る② 中核症状・行動心理症状：BPSD				前回授業内容の理解を深めておく		
4. 尊厳の保持を考える パーソンセンタードケア アドボケイド宣言				前回授業内容の理解を深めておく		
5. 非薬物的療法 回想法 リアリティオリエンテーション バリデーション				前回授業内容の理解を深めておく		
6. 認知症サポーター研修の受講				前回授業内容の理解を深めておく		
7. 認知症の病態に基づいたケアの実践（グループワーク）				前回授業内容の理解を深めておく		
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	適宜、課題の提出を指示する	担当教員から課題の内容を指示する	授業内容全般の理解度を評価する	授業態度：受講の積極性や理解度等を総合的に判断する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	日本認知症予防学会編	認知症予防フレンドテキストブック		徳間書店	2018	
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する					
履修要件等	教科書・配布資料を必ず持参すること					
研究室	研究科棟 4階 145 研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 14:40～16:10			

科目No.	SPT20-2E, SOT17-2E, SRM05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	スポーツリハビリテーション 概論		担当教員 E-Mail	久保 峰鳴・小俣 武陸 kubot@kawasakigakuen.ac.jp komatut@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテーション				
教員の実務経験と 授業内容の関連	スポーツリハビリテーション概論について、臨床およびスポーツ現場でのサポート経験がある教員にて講義と実技を行う。					
授業内容の要約	スポーツ活動を行うすべての選手に対する安全で有効なサポート方法について学習し、臨床場面や各種スポーツ大会などにおいて、選手に健康的なサポートができる基本的な知識を身につける。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツにおけるインテグリティを理解する 2. スポーツ選手に多い一般的な病態を説明できる 3. 障がい者スポーツの重要性を理解する 4. スポーツ傷害の疾患に応じた評価方法を説明できる 5. 基本的な安全管理について理解できる 					
対面授業の 進め方	講義は、講義内で配布する資料を中心に解説する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Teamsによるオンライン形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. スポーツ傷害の病態運動学				運動学(力学)を復習しておくこと。		
2. スポーツ傷害の測定と評価				授業内容を復習し理解する		
3. 競技復帰のためのエクササイズとテクニック				授業内容を復習し理解する		
4. 競技復帰のためのプログラムデザイン				授業内容を復習し理解する		
5. スポーツのインテグリティと指導者に求められる素質				授業内容を復習し理解する		
6. 障がい者スポーツの意義と理念				授業内容を復習し理解する		
7. 安全管理				授業内容を復習し理解する		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 80%		■レポート 20%		□定期試験 %
	基準等	必要に応じて小テストを実施する		必要に応じてレポート課題を与える		□その他 %
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
参考図書	松本秀夫 編集	スポーツ整形外科学		文光堂		2020
履修要件等						
研究室	1号館4階 第3研究室(小俣) 1号館5階 第3共同研究室(久保)		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50		

科目No.	SPT22-2E, SOT19-2R, FHW08-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	園芸療法		担当教員 E-Mail	田崎 史江 tazakif@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2単位	後期(30h)
	作業療法学	作業療法治療学		必修		
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念		選択必修		
教員の実務経験と授業内容の関連	園芸療法士としての経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。					
授業内容の要約	園芸療法の基礎的な知識を学ぶ。園芸療法の対象者となるクライアントのニーズや課題、必要なサポート等をとらえ、園芸療法を通じたアプローチ方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 園芸療法の対象者のニーズや課題が理解できる 2. 園芸療法の効果や方法を説明できる 3. 園芸療法を系統立てて考えられる					
対面授業の 進め方	基本的に授業は講義形式で行う。授業後の復習課題を出すので、それにより習熟度を確認する。					
遠隔授業の 進め方	毎回の資料をメールにて送付する。授業は teams を使用して行う。授業後に復習課題の期限内提出により出席確認とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 園芸療法士資格取得について、園芸の経験、興味・関心の調査等			復習：園芸療法と園芸の違いをまとめる			
2. 園芸療法（HT）とは：園芸療法の「定義」「歴史」「代替療法」			復習：植物を使った療法を調べ、比較しまとめる			
3. HT 目的と手技 1：「高齢者」「認知症」高齢者施設での実践紹介			復習：高齢者の加齢による身体の変化をまとめる			
4. HT 目的と手技 2：「知的障がい・発達障がい」「特別支援学校」「就労支援」			復習：作業学習の目的をまとめる			
5. HT 目的と手技 3：「身体障がい」身体機能へのアプローチ			復習：園芸活動が身体領域でどう生かせるか			
6. HT 目的と手技 4：「精神障がい」精神心理機能へのアプローチ			復習：精神領域で行う園芸についてまとめる			
7. HT 目的と手技 5：「子ども」「地域活動」「園芸福祉」			復習：地域で園芸をどう生かせるかまとめる			
8. HT の進め方 1：園芸療法の進め方手順			復習：リハビリテーションの進め方をまとめる			
9. HT の進め方 2：対象者の評価			復習：対象者の情報収集内容についてまとめる			
10. HT 場面のリスクマネジメント			復習：園芸の場のリスクについてまとめる			
11. 園芸療法を始めるための準備 環境設定（庭・畑）、現場の問題と解決法			復習：園芸療法のための道具と設備をまとめる			
12. 植物のアメニティ効果・植物の魅力、植物を使うことの利点と欠点			復習：周囲にある気になる植物について振り返る			
13. 各国の園芸療法事情・園芸関連情報			復習：緑に関する情報を検索してまとめ・考察			
14. 前期授業の総復習と前期試験のための準備 チェックシート						
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■課題 30 %	■レポート %	■定期試験 70 %	■その他 %	
	基準等	授業後の復習課題の実施・内容を評価する。		定期試験を実施し、授業内容の理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない。各回において講義資料を配布する。					

参考図書	山根寛 ほか	「園芸リハビリテーション」	医歯薬出版株式会社	2003
	山根寛	「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」	青海社	2009
履修要件等	<p>「園芸論」「ガーデニング」を履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。</p>			
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00	

科目No.	SPT24-2E, SOT21-2E, FHW10-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	園芸論		担当教員 E-Mail	田崎 史江 tazakif@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2単位	後期(30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念				
教員の実務経験と授業内容の関連	園芸療法士、ハーバルセラピストとしての経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。					
授業内容の要約	園芸とは何かを理解し、園芸療法で用いる植物全般に関する知識の習得を目指す。植物の特性や暦を学ぶことで、季節に応じた植物の利活用、人と植物の関わりなどの理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 植物の名前や生態を調べて活用できる 2. 園芸療法の目的に沿い、クライアントに適した植物を選択できる 3. 暦を通して、季節に応じた植物の利活用ができる					
対面授業の 進め方	資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。後半には園芸療法で行うプログラムを体験する。					
遠隔授業の 進め方	毎回の資料をメールにて送付し、授業は teams を使用した講義で進めていく。授業後、期限内に提出された課題と、teams の出席とを合わせて課題の評価とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、植物の分類			復習：植物の分類を覚える			
2. 植物の基礎知識1： 花卉、野菜			復習：花と野菜の名前を覚える			
3. 植物の成長1： 栄養成長・生殖成長			予習：暦とは何か調べる			
4. 暦1： 暦とは、9月・10月の暦			復習：9月・10月の暦の用語を覚える			
5. 植物の基礎知識2： 樹木・果樹、観葉植物			復習：樹木・果樹の名前や分類を覚える			
6. 植物の成長2： 養分の吸収・光合成と環境要因			予習：ハーブについて調べる			
7. 植物の基礎知識3： ハーブ			復習：ハーブの名前や効能をまとめる			
8. 植物の成長3： 栽培環境・病害虫・雑草とその制御			予習：有毒植物を調べる			
9. 植物の基礎知識4： 有毒植物・危険な生き物、対策と応急処置			復習：対策と応急処置をまとめる			
10. 植物の成長4： 繁殖、機能と利活用			復習：植物の機能をまとめる			
11. 暦2： 11月・12月・1月・2月の暦			復習：11月～2月の暦の用語を覚える			
12. 園芸療法プログラム体験1：クリスマスクラフト			復習：植物を使ったクリスマス飾りを調べる			
13. 園芸療法プログラム体験2：お正月・干支のクラフト			復習：お正月飾りについて調べる			
14. 全体復習・植物名テスト			復習：試験に向けて復習する			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■課題 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	植物名テスト(対面時) 提出課題内容(遠隔時)		定期試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に教科書は指定しない。各回において講義資料を配布する。					
参考図書	土橋 豊	「園芸有毒植物図鑑」		淡交社	2015	
履修要件等	「園芸療法」「ガーデニング」も履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1号館5階 第2共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00		

科目No.	SPT23-2E, SOT20-2E, FHW09-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次			
授業科目名	ガーデニング		担当教員 E-Mail	田崎 史江 tazakif@kawasakigakuen.ac.jp					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2単位	後期(30h)			
	作業療法学	作業療法治療学							
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念							
教員の実務経験と授業内容の関連	園芸療法士、ハーバルセラピストとしての経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。								
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、栽培計画、収穫物の利活用を体験し学ぶ。								
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理・収穫物の利活用ができる 2. 園芸植物の栽培記録を毎回書くことで変化に気づき、必要な手入れができる 3. 園芸植物の栽培に必要な情報を収集・整理し、年間の野菜栽培計画ができる								
対面授業の 進め方	主に畑を使った園芸実習の授業とする。天候により内容が変更となる場合もある。教科書に沿って講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装(初回講義時に連絡)で参加すること。								
遠隔授業の 進め方	毎回の授業課題や資料はメールにて送る。実習に関する講義用動画を使う場合は、講義時間に合わせて流す。期限内の課題提出により質疑応答・出席確認を行う。 ハイブリッド授業になる場合は、学生の登校スケジュールに合わせて授業を組み、なるべく演習形態がとれるようにする。								
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上			
1. オリエンテーション				予習：冬野菜の名前を調べる					
2. 野菜栽培1： 道具、土づくり、畝たて、冬野菜の選択				予習：次回に向けて野菜の育て方を調べる					
3. 野菜栽培2： 冬野菜の播種、苗の定植、灌水、栽培記録				課題：冬野菜別播種方法をまとめる					
4. 野菜栽培3： 野菜につく害虫、その予防と対策				課題：自分の野菜の害虫対策を考える					
5. 野菜栽培4： 基本の管理作業(追肥、除草)				課題：野菜の栽培記録をつける					
6. 野菜栽培5： 基本の管理作業(間引き、中耕、土寄せ)				課題：野菜の栽培記録をつける					
7. 野菜栽培6： 野菜の病気、その予防と対策				課題：野菜の栽培記録をつける					
8. 野菜栽培7： 年間栽培計画				課題：年間野菜栽培計画書を作る					
9. 野菜栽培8： 収穫、活用				課題：自分の野菜の調理法を考える					
10. 野菜の収穫、栽培記録のまとめ				課題：野菜の栽培記録をまとめる					
11. 野菜の収穫、栽培記録のまとめ				課題：野菜の栽培記録をまとめる					
12. 野菜の収穫、栽培記録のまとめ				課題：野菜の栽培記録をまとめる					
13. 野菜の収穫、畑の片づけ				課題：野菜の栽培記録をまとめる					
14. 野菜の収穫、畑の片づけ				課題：野菜の栽培記録を提出する					
定期試験									
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)、栽培計画書返却：試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う									
成績評価方法	項目	☐ 課題	%	☒ レポート	30%	☒ 定期試験	70%	☐ その他	%
	基準等	栽培記録をレポートとし、内容を評価する			定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する				
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	藤田智	「成功するコンテナ菜園」			NHK出版		2013		
参考図書									

履修要件等	<p>「園芸療法」「園芸論」も履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「ガーデニング」「園芸療法」「園芸論」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。</p>		
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00

科目No.	SRP01-2R, SRO01-2R, SRM01-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	生活環境学 (2年)		担当教員 E-Mail	古井 透 furu@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学		必修			
	言語聴覚学		選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は介護保険施行10年前から地方行政職の理学療法士として実務経験があり、福祉住環境コーディネーター資格1回目の合格者で、初期の福祉用具プランナー資格養成講習の講師などを歴任するなど領域への豊富な経験から、福祉住環境コーディネーター2級レベルの問題解決力を育成するノウハウを持ち、セラピストが福祉住環境整備を進めるエトスを伝える事ができる。					
授業内容の要約	人は環境との相互作用の中で生きる。時として環境が生活者を蝕んだり困らせたりする。障がいと折り合いをつけながら生きる人にとって環境バリアにはどんなものがあるのか追求しつつ、福祉住環境コーディネーター2級の資格試験に挑みながら、学修姿勢を確立する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 障がい特性に応じた生活への理解を深め、合理的配慮やそれに基づく環境整備をプランできる 福祉住環境コーディネーターにもとめられる倫理・規範にもとづく振る舞いができる 福祉住環境コーディネーター2級に合格(70点以上)できる 					
対面授業の 進め方	授業スライドを事前DLし予習し、授業後小テストへの準備の学修が欠かせないのでTEXTのページをあらかじめ示す(シラバス作成時点で公式TEXT改訂は未公開なので、開講後ページ数の変更がある)。授業はTEXT範囲の講義を中心にを行い、期限までに課題クイズに回答して1回分の出席とみなす。なお、全体の理解度をもとに、授業進度を調節することがある。					
遠隔授業の 進め方	授業動画をDLし視聴後、その範囲の課題クイズに回答する。折り返しスコアと解説が送付されるのでしっかり復習を積み重ねる。クイズの答えっぱなしは、中間・期末試験で残念な結果となる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 福祉住環境整備の基本技術			教科書 p240-266 を通読しておく			
2. 生活行為別福祉住環境整備			教科書 p267-315 を通読し、前回の復習			
3. 建築基礎知識と演習			教科書 p316-345 を通読し通読し、前回の復習			
4. 在宅生活における福祉用具(起居・移動)			教科書 p346-373 を通読し、前回の復習			
5. 在宅生活における福祉用具(リフト、排泄、入浴、自助具、義肢装具)			教科書 p352-400 を通読し、前回の復習			
6. 定期試験(中間試験)			教科書 p240-400			
7. 介護保険制度と住環境			教科書 p2-49 を通読しておく			
8. 障害者施策、コーディネーターの役割			教科書 p50-83 を通読し、前回の復習			
9. ICFとインクルージョン			教科書 p84-121 を、前回の復習			
10. 高齢者に多い疾患別の福祉住環境整備(CVA 廃用症候群・骨折・認知症)			教科書 p124-155 通読、前回の復習			
11. 障害別の福祉住環境整備(脊髄損傷・脊髄小脳変性症・ALS・筋ジス・脳性麻痺・内部障害・視聴覚障害・認知行動障害・切断)			教科書 p156-198 通読し、前回の復習			
12. 相談援助と福祉住環境整備の進め方			教科書 p76-83, p200-239 を通読し、前回の復習			
13. 総まとめ1			教科書 p2-239 を通読し、総復習			
14. 総まとめ2			教科書 p2-2393 を通読し、総復習			
定期試験(期末試験)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	□レポート0%	■定期試験 60%	■その他 %
	基準等	中間試験 1-5回授業範囲で福祉住環境 コーディネーター2級試験と 同等レベルの難易度の問題		7-12回までの範囲で2021 年福祉住環境コーディネー ター2級試験と同等レベル の難易度の問題	福祉住環境コーディネー ター2級合格者は公式試 験得点(70点以上)をそ のまま評価する。
教科書 (いずれか)	著者	タイトル		出版社	発行年
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト改定6版(予定)		東京商工会議所	2022年3 月(予定)
	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネー ター2級速習レッスン		ユーキャン	2022
参考図書	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネー ター2級重要過去問&予想模試		ユーキャン	2022
参考図書	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネー ター2級これだけ!一問一答&要点ま とめ		ユーキャン	2022
	HIPS 合格対策プロ ジェクト	福祉住環境コーディネーター検定試験 2級過去問題集2022年版		ハウジングエージェ ンシー	2022
履修要件等	日常生活活動系・および義肢装具系科目の履修済みが望ましい。				
研究室	1号館5階 第20研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50	

科目No.	FHW02-2E, FHW05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	社会福祉援助技術論 (含ケースワーク論)		担当教員 E-Mail	野村 和樹 nomurak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念	選択必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	児童養護施設 指導員(嘱託) 事例検討と面接において実際の臨床場面を題材に用いて教える					
授業内容の要約	<p>本講義は、“対人支援”に関わる講義である。したがって、講義に用いる事例は、登場人物の人生と切り離して考えられるものではない。単に知識の習得に止まらず、共感と理解を目指すものとした。まずは基本となるところの面接のあり方を理論的に明らかにする。社会福祉援助活動の意義・形態・方法を通して、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を教授する。</p> <p>援助技術を学ぶことにより、専門職として他者との豊富なコミュニケーションが図れ、必要とされる情報の収集が可能になり多職種との連携が円滑にできる。</p> <p>他者とのコミュニケーションにおいても、社会福祉の理念が反映していることが確認できる。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケースワークに関わる理論について説明でき、それぞれの方法や活動の目的や役割を理解できる 2. 社会福祉の専門的援助について理解を深め、展開場面ごとに意義と方法について説明できる 3. 対人支援の臨床現場において、ラポールの形成等援助技術を活用できる 					
対面授業の 進め方	基本的な知識を講義した上で、事例を基にグループディスカッションやロールプレイを行い、その結果をプレゼンテーションする。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること					
遠隔授業の 進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。グループディスカッションについては、レポートで対応する。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、原則として登校日に配付。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ソーシャルワーカーとは イギリスのソーシャルワーカー			ソーシャルワーカーについての意見をまとめること			
2. 社会福祉援助技術の体系			社会福祉援助技術の体系をまとめること			
3. ソーシャルワークの展開過程			ソーシャルワークの過程をまとめること			
4. 面接技法Ⅰ(初回面接、ラポールの形成)			ラポールの形成についてまとめること			
5. 面接技法Ⅱ(面接に関わる理論と技法)			面接に関わる理論をまとめること			
6. 援助技術の実践Ⅰ 事例検討と面接			事例検討とロールプレイについての意見をまとめること			
7. 援助技術の実践Ⅱ 事例検討と面接のプレゼンテーション			他のグループの評価を行うこと			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題 10%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 20%	
	基準等	事例検討		社会福祉援助技術の知識を問う		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	各項目に応じてレジュメを配布する。					

参考図書	講義内で適宜紹介する。		
履修要件等	「社会学」、「社会福祉学」、「社会保障制度」を履修されていることが望ましい。		
研究室	1号館4階第1研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00

科目No.	FBM07-2E		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	解剖学実習 (S T)		担当教員 E-Mail	大籠 友博 ohgomorit@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学		選択必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	1年次の形態・機能学での講義の知識を基として人体の構造をさらに詳しく理解を進める。各種標本を使って三次元的な構築を総合的に理解する。本実習では、系統的な学習よりも局所(臨床)的な立場に立って器官の構成・配置を理解する。神経と脈管を中心にネットワーク構築を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 人体を構成する基礎となる骨格についての構造と解剖学用語を理解することができる 2. 呼吸器系の構造を理解し、呼吸運動について説明することができる 3. 内分泌系の特徴と機能を理解することができる 4. 頭頸部に関する神経系の構成について理解することができる					
対面授業の 進め方	実習。模型を利用しながら座学で扱った内容の復習を通じて、国家試験の問題が解けるように慣れてゆく。実習の効率を上げ、理解度を高めるために教科書や関連する解剖関連の図譜を参考にして予習をすることが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	遠隔の場合、穴埋め課題をメールで配信する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 脳神経と頭蓋を通過する孔				前期実習内容の復習		
2. 上行性伝導路				前回実習内容の復習と予習		
3. 下行性伝導路Ⅰ、錐体路				前回実習内容の復習と予習		
4. 下行性伝導路Ⅱ、錐体外路				前回実習内容の復習と予習		
5. 小脳路(遠心性と求心性)と脳幹網様体				前回実習内容の復習と予習		
6. 大脳の外観と内部構造(水平断)、ブロードマンの脳地図				前回実習内容の復習と予習		
7. 間脳(視床と視床下部、脳下垂体、脳脊髄関門 BBB)				前回実習内容の復習と予習		
8. 中脳の構造、断面と内部構造と機能				前回実習内容の復習と予習		
9. 橋、延髄の構造、断面と内部構造と機能				前回実習内容の復習と予習		
10. 感覚器(視覚器、聴覚器)				前回実習内容の復習と予習		
11. 実践問題演習 1				前回実習内容の復習と予習		
12. 実践問題演習 2				前回実習内容の復習と予習		
13. 実践問題演習 3				前回実習内容の復習と予習		
14. まとめテスト				前回実習内容の復習と予習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 80%	□レポート	%	■定期試験 20%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に穴埋め課題を与え、模型を利用しながら座学講義の復習を実施し、国家試験の過去問題が解けるように訓練していく。	特段のレポート課題はしない		実習で扱った内容に即した国家試験準拠の問題を実施し、点数を20%換算する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版」	医学書院	2020
参考図書	坂井建雄	「プロメテウス解剖学アトラス 第3版 頭頸部・神経解剖」	医学書院	2019
	寺島俊雄	カラー図解 神経解剖学講義ノート	金芳堂	2011
履修要件等	「解剖学Ⅰ」および「解剖学Ⅱ」を履修済であることが望ましいが、特段制限は設けない。			
研究室	1号館5階 第8研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00	

科目No.	FPS03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	臨床心理学 I (ST)		担当教員 E-Mail	堺 景子 sakaike@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	心理学		必修	1単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連							
授業内容の要約	臨床心理学の成り立ちや基本概念、代表的な理論を習得する。心理に関する支援を要する人々に対しての代表的な介入方法を習得する。						
学修目標 到達目標	1 臨床心理学の歴史、代表的な理論体系や介入方法を説明することができる。 2 本講義で学ぶ代表的な基礎理論に基づき、心理に関する支援を要する人々に対して、適切な支援法を判断することができる。 3 心理に関する支援を要する人々との信頼関係を構築するにあたり、支援者にはどのような態度や姿勢が求められるのかについて主体的に考えることができる。						
対面授業の 進め方	講義形式で行う。毎回講義スライドをプリントとして配布するので、適宜加筆すること。授業時間内に毎回小テストを行う。						
遠隔授業の 進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画配信後、課題を配布する。						
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上	
1. 臨床心理学とは			授業内容・小テストの復習				
2. パーソナリティ理論			授業内容・小テストの復習				
3. 発達理論			授業内容・小テストの復習				
4. 学習理論			授業内容・小テストの復習				
5. 心理アセスメント			授業内容・小テストの復習				
6. 心理検査①(質問紙法)			授業内容・小テストの復習				
7. 心理検査②(投影法)			授業内容・小テストの復習				
8. 心理検査③(知能検査、発達検査、神経心理学的検査)			授業内容・小テストの復習				
9. 心理的介入①(精神分析的アプローチ)			授業内容・小テストの復習				
10. 心理的介入②(行動療法/認知行動療法的アプローチ)			授業内容・小テストの復習				
11. 心理的介入③(パーソンセンタードアプローチ)			授業内容・小テストの復習				
12. 心理的介入④(遊戯療法、箱庭療法、芸術療法)			授業内容・小テストの復習				
13. 心理的介入⑤(家族療法、日本固有の心理療法)			授業内容・小テストの復習				
14. 心理臨床活動の実践			授業内容・小テストの復習				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解説)							
成績評価方法	項目	■課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	特に指定しない						
参考図書							
履修要件等							
研究室	研究科棟4階 146 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12時30分～13時30分			

科目No.	SBP04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	機能運動学 I		担当教員 E-Mail	村西 壽祥 muranishih@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	解剖学および運動学の知識を基に、身体各部位(下肢)の運動および機能、病態について学習する。					
学修目標 到達目標	1. 下肢関節を構成する構造および機能的な役割を説明できる。 2. 主要な関節の関節運動が説明できる。 3. 各関節に生じる病態とその影響について説明できる。					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学、基礎運動学を理解している前提で進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論、股関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：股関節の解剖学的特徴			
2. 股関節の構造と機能② 関節包・靭帯の機能			復習：股関節を構成する組織の役割			
3. 股関節の構造と機能③ 筋機能			復習：股関節周囲筋の機能			
4. 股関節の構造と機能④ 運動学			復習：股関節の代表的バイオメカニクス			
5. 股関節の構造と機能⑤ 病態運動学			復習：股関節の病態運動学			
6. 膝関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：膝関節の解剖学的特徴			
7. 膝関節の構造と機能② 関節包・半月・靭帯の機能			復習：膝関節を構成する組織の役割			
8. 膝関節の構造と機能③ 筋機能			復習：膝関節周囲筋の機能			
9. 膝関節の構造と機能④ 運動学			復習：膝関節の代表的バイオメカニクス			
10. 膝関節の構造と機能⑤ 病態運動学			復習：膝関節の病態運動学			
11. 足関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：足関節の解剖学的特徴			
12. 足関節の構造と機能② 靭帯の機能			復習：足関節を構成する組織の役割			
13. 足関節の構造と機能③ 筋機能			復習：足関節周囲筋の機能とバイオメカニクス			
14. 足関節の構造と機能④ 歩行、病態運動学			復習：足関節の病態運動学			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト30%	□レポート	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する		記述試験のみ(記号問題、選択問題は実施しない)、解答は説明することを求める		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー原著第3版」		医歯薬出版	2020	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学解剖領域 I・II, 解剖学実習 I・II, 基礎運動学, 基礎運動学実習					
研究室	1号館5階 第21研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SBP05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	機能運動学Ⅱ		担当教員 E-Mail	村西 壽祥 muranishih@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験の教員が講義を行う。					
授業内容の要約	機能運動学Ⅰに引き続き、解剖学および基礎運動学の知識を基に、身体各部位(上肢・体幹)の運動および機能、病態について学習する。					
学修目標 到達目標	1. 上肢関節と体幹の構造と機能的な役割を説明できる。 2. 主要な関節の関節運動が説明できる。 3. 各関節に生じる病態とその影響について説明できる。					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学、基礎運動学を理解している前提で進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 肩関節・肩甲帯の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：肩関節の解剖学的特徴			
2. 肩関節・肩甲帯の構造と機能② 関節包・靭帯の機能			復習：肩関節を構成する組織の役割			
3. 肩関節・肩甲帯の構造と機能③ 筋機能と運動学			復習：肩関節周囲筋の機能			
4. 肩関節・肩甲帯の構造と機能④ 病態運動学			復習：肩関節のバイオメカニクスと病態運動学			
5. 肘・前腕の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：肘・前腕の解剖学的特徴			
6. 肘・前腕の構造と機能② 靭帯の機能			復習：肘・前腕を構成する組織の役割			
7. 肘・前腕の構造と機能③ 筋機能と運動学			復習：肘・前腕周囲筋の機能			
8. 肘・前腕の構造と機能④ 病態運動学			復習：肘・前腕のバイオメカニクスと病態運動学			
9. 手関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：手関節の解剖学的特徴			
10. 手関節の構造と機能② 筋機能			復習：手関節を構成する組織の役割			
11. 手関節の構造と機能③ 運動学と病態運動学			復習：手関節周囲筋の機能とバイオメカニクス			
12. 体幹の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：脊柱の解剖学的特徴と組織の役割			
13. 体幹の構造と機能② 筋機能			復習：体幹筋の機能			
14. 体幹の構造と機能③ 運動学と病態運動学			復習：体幹のバイオメカニクスと病態運動学			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		□レポート		■定期試験 70%
	基準等	毎回、授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する				□その他 %
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー原著第3版」		医歯薬出版	2020	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ, 解剖学実習Ⅰ・Ⅱ, 基礎運動学, 基礎運動学実習					
研究室	1号館5階 第21研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SPE02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	筋骨格系触察法		担当教員 E-Mail	今井 亮太 imair@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	本科目は評価や理学療法の土台となる触察技術の実習であり、臨床経験が10年以上を有する教員が担当する。					
授業内容の要約	骨や骨格筋などの触察は関節運動の誘導や運動療法を実施するために必要な技術である。解剖学の講義で学習した骨や骨格筋について実際に人体に触れることで理解を深める。また、骨格筋がどのように関節運動を誘導するか理解する。					
学修目標 到達目標	1. 代表的な骨指標の触察ができる 2. 代表的な骨格筋の触察ができる 3. 筋の起始・停止、神経支配を説明できる 4. 骨格筋の機能について説明できる					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用し、実技中心に授業を進める。 ・触察を行なうので、Tシャツ、短パンなど上下肢を露出しやすい服装で授業に参加すること。 ・本講義に先立って、解剖学の基礎知識を習得しておくこと。 					
遠隔授業の 進め方	Teamsにて講座を実施する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 触察の基本、骨指標の触診(胸郭・骨盤)			P4~19, 418~422 予習と復習			
2. 骨指標の確認(大腿骨)			P424 予習と復習			
3. 骨指標の確認(膝関節周辺)			P435 予習と復習			
4. 骨指標の確認(足関節および足部周辺)			P439 予習と復習			
5. 骨指標の確認(肩甲帯、上腕骨)			P425 予習と復習			
6. 骨指標の確認(橈骨、尺骨)			P430 予習と復習			
7. 筋の触察と機能の理解(股関節に関わる筋)			P276~311 予習と復習			
8. 筋の触察と機能の理解(膝関節に関わる筋)			P316~339 予習と復習			
9. 筋の触察と機能の理解(足関節に関わる筋)			P349~360 予習と復習			
10. 筋の触察と機能の理解(肩甲上腕関節に関わる筋)			P156~177 予習と復習			
11. 筋の触察と機能の理解(肩甲胸郭関節に関わる筋)			P22~45, 116~133 予習と復習			
12. 筋の触察と機能の理解(肘関節に関わる筋)			P178~204 予習と復習			
13. 筋の触察と機能の理解(手関節および手指に関わる筋)			P205~260 予習と復習			
14. 筋の触察と機能の理解(胸郭・脊柱に関わる筋)			P58~99 予習と復習			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 60 %		■その他 40 %
	基準等			定期試験にて理解度を問う		触察法に関する実技を行う。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	河上敬介	改訂第2版 骨格筋の形と触察法		大峰閣	2013	
参考図書	林典雄、他	改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢)		メジカルビュー社	2011	
	林典雄、他	改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)		メジカルビュー社	2012	

履修要件等			
研究室	1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00

科目No.	SPE03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学 I		担当教員 E-Mail	畑中 良太 hatanakar@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、理学療法評価の基本的な知識と手法、理学療法評価の考え方について評価する。					
授業内容の要約	理学療法評価学は、教育課程における専門科目であり、対象者の問題点の抽出および治療プログラム作成変更のために無くてはならない科目である。一連の理学療法評価系の授業を受講することによって、理学療法評価を円滑に実施できるようにする。本講座は評価の総論および神経学的検査測定技術について学習する。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法評価の基本的概念を理解することができる 2. 神経学的検査の測定方法を理解することができる 3. 基本的な神経学的検査の測定ができる					
対面授業の 進め方	概要を講義形式にて行い、問題演習、実習、検査結果の解釈等のグループワークを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 評価総論(教科書 pp18-78)			復習: 医療面接・情報収集について			
2. 意識障害、脳神経の検査(教科書 pp79-101)			復習: 意識の分類・JCS について			
3. 認知症スクリーニング検査(教科書 pp102-133)			復習: HDS-R、MMSE について			
4. 感覚検査(総論、表在検査)(教科書 pp177-194)			復習: 感覚伝導路、感覚障害のパターン			
5. 感覚検査(深部検査)(教科書 pp177-194)			復習: 感覚検査の方法			
6. 反射検査(腱反射)(教科書 pp203-208)			復習: 反射弓の理解			
7. 反射検査(表在反射、病的反射)(教科書 pp 209-212)			復習: 反射検査の方法			
8. 片麻痺機能検査(ブルンストローム・ステージ)(教科書 pp447)			復習: BRST の方法			
9. 協調性検査(教科書 pp 308-309)			復習: 協調運動障害の種類			
10. 筋緊張検査(教科書 pp 213-217)			復習: 筋緊張とは何か			
11. 姿勢バランス検査(教科書 pp 279-307)			復習: バランス検査の方法			
12. 注意・遂行機能障害の検査(教科書 pp 105-133)			復習: 注意障害と遂行機能障害について			
13. 高次脳機能検査(教科書 pp105-133)			復習: 失行、失認について			
14. ロールプレイ			復習: 講義内容全般の実技			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 40%	■その他 40%	
	基準等	授業内に小テストを実施し、内容についての理解を評価する。		筆記試験を行う。授業内容全般の理解度を評価する。		実技試験を行う。各検査における実施手順等の確認を行い、評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	潮見泰蔵ほか	「リハビリテーション基礎評価学第2版」		羊土社	2019	
	鈴木則宏	「神経診察クローズアップ改訂第3版」		メジカルビュー	2020	

参考図書	吉尾雅春ほか	「神経理学療法学第2版」	医学書院	2018
	伊藤俊一ほか	「片麻痺機能検査 協調性検査」	三輪書店	2014
履修要件等	解剖学および生理学関係の教科が履修済みであることが望ましい。			
研究室	3号館2階 第29研究室	オフィスアワー	毎週金曜日 12:00~13:00	

科目No.	SPE04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		担当教員 E-Mail	久利 彩子 hisaria@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障がいをもつ患者の理学療法と理学療法評価に携わった経験と専門知識を持つものが、理学療法評価の動作観察および動作分析の基礎について、講義する。					
授業内容の要約	患者の「動作観察」「動作分析」は、適切な理学療法実施に重要である。当該科目では、基本動作の動作観察とメカニズム、正常から逸脱した動作における動作観察と動作分析、機能障害(impairment)の推論を学ぶ。理学療法士にとって必要な「障害」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。					
学修目標 到達目標	1. 基本動作の動作観察とメカニズムを理解する。 2. 正常から逸脱した動作観察と動作分析、impairmentの推論を理解する。					
対面授業の 進め方	授業は、基本的に講義形式で行うが、アクティブラーニング(グループワーク、ディスカッション)による演習も行う。講義では、基本動作や正常から逸脱した動作について静止画と動画の画像情報を利用して、実践的な場面に非常に近い状況で講義を展開する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション、 寝返りの動作観察とメカニズム (教科書 pp30-49)				予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:配布資料と教科書の該当箇所について、復習をすること。		
2. 寝返りの動作観察と動作分析 Impairmentと現象(動作) (資料配布)						
3. 寝返りの動作観察と動作分析 Impairmentの推論 (教科書 pp50-58)						
4. 起き上がりの動作観察とメカニズム (教科書 pp82-97)						
5. 起き上がりの動作観察と動作分析 Impairmentと現象(動作) (資料配布)						
6. 起き上がりの動作観察と動作分析 Impairmentの推論 (教科書 pp98-107)						
7. 起立・着座動作の動作観察とメカニズム (教科書 pp122-137)						
8. 起立・着座動作の動作観察と動作分析 Impairmentと現象(動作) (資料配布)						
9. 起立・着座動作の動作観察と動作分析 Impairmentの推論 (教科書 pp138-148)						
10. 歩行の動作観察とメカニズム1 (教科書 pp168-179)						
11. 歩行の動作観察とメカニズム2 (教科書 pp179-190)						

12. 歩行の動作観察と動作分析 Impairment と現象 (動作) 1 (資料配布)					
13. 歩行の動作観察と動作分析 Impairment と現象 (動作) 2 (資料配布)					
14. さまざまな動作における現象					
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					復習：解説をノートにまとめること。
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☒ 定期試験 100 %	☐ その他 %
	基準等			筆記試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	石井慎一郎	動作分析臨床活用講座		メジカルビュー	
参考図書	中村隆一 他	基礎運動学		医歯薬出版	
履修要件等					
研究室	1号館5階 第9研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50	

科目No.	SPE05-2R		授業形態	実習	開講年次	2 年次
授業科目名	理学療法評価学実習 I		担当教員 E-Mail	岡 健司 久保 峰鳴 okak@kawasakigakuen.ac.jp kubot@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	1 単位	前 期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士有資格教員が臨床での経験を活かし、筋力検査等に関する実技実習を行う。					
授業内容の要約	理学療法に必要な検査・測定技術と評価法のうち、徒手筋力検査法(MMT)の習熟を主たる目標として実習を行う。また、痛み、バイタルサイン、脳神経の検査について学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 徒手筋力検査法 (MMT) の意義を理解し、上肢・下肢・体幹の MMT を正確に実施できる 2. 代表的な痛みの検査の実施方法を理解し、聴診法による血圧測定を正確に実施できる					
対面授業の 進め方	実技実習を中心に行うので、動きやすい服装で出席すること。 実技に関する知識・技術は学習者自身の自発的行動によって習熟するものであると理解すること。 授業の進め方はシラバスと異なることがある。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 痛みの検査、バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸、体温)の測定			復習：痛みの検査と血圧測定の実技練習、			
2. MMT：概要説明、肩関節の検査 (1)			予習：肩関節の解剖学、復習：実技練習			
3. MMT：肩関節の検査 (2)			予習：肩関節の解剖学、復習：実技練習			
4. MMT：肩甲帯の検査			予習：肩甲帯の解剖学、復習：実技練習			
5. MMT：肘関節・前腕・手関節の検査			予習：上肢の解剖学、復習：実技練習			
6. MMT：頭頸部の検査、体幹の検査 (1)			予習：頭頸部・体幹の解剖学、復習：実技練習			
7. MMT：体幹の検査 (2)			予習：体幹の解剖学、復習：実技練習			
8. これまでの MMT のまとめ			予習：これまで学んだ MMT の実技練習			
9. MMT：股関節の検査 (1)			予習：股関節の解剖学、復習：実技練習			
10. MMT：股関節の検査 (2)			予習：股関節の解剖学、復習：実技練習			
11. MMT：膝関節・足関節の検査			予習：下肢の解剖学、復習：実技練習			
12. MMT：足部の検査、手指・足趾の検査			予習：下肢・手指・足趾の解剖学、復習：実技練習			
13. 脳神経の検査、脳神経支配筋の MMT			予習・復習：脳神経の機能解剖学			
14. これまでの MMT のまとめ			予習：これまで学んだ MMT の実技練習			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 20%	☐ レポート %	☒ 定期試験 80 %	☐ その他 %	
	基準等	授業内で提示する課題の遂行状況		筆記試験および実技試験		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Hislop, Avers, Brown	新・徒手筋力検査法 原著第 10 版		共同医書出版社	2020	
参考図書	潮見・下田監修	リハビリテーション基礎評価学第 2 版		羊土社	2019	
	福田修・監修	MMT—頭部・頸部・上肢 第 2 版		三輪書店	2016	
履修要件等	福田修・監修	MMT—体幹・下肢 第 2 版		三輪書店	2016	
	研究室	岡：1 号館 4 階 第 2 研究室 久保：1 号館 5 階 第 3 共同研究室		オフィスアワー	岡：毎週火曜日 12:10～13:00 久保：毎週月曜日 12:10～13:00	

科目No.	SPE06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅱ		担当教員 E-Mail	酒井 桂太・理学療法士教員 sakaik@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	理学療法計測法、理学療法評価学Ⅰ・同実習を基にした障害毎の理学療法検査・測定とその評価について学内にて全体授業と少人数教育による実習を行う					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学評価の流れについて理解する 2. 少人数の学内実習にて、実際に評価を実習し修得する 3. 検査結果を統合と解釈することで障害構造を把握し、治療計画に繋げる 					
対面授業の 進め方	学内にての紙面上の患者および模擬患者に対して評価における実習を中心に行う。全体は1症例を提示しながら初期評価の作成過程を理解していく。SGLは小グループごとに担当教員と医療面接、バイタル測定、姿勢・動作観察から評価プランを立てる実習を行う。SGLに関してデイリーノートを作成しておく。なお、コロナ禍のため健康管理に気を付けて、感染対策を徹底してください。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は理学療法学専攻2年のTeamsにて対応予定である。SGLにおいては、担当教員ごとのTeamsを新たに作成し対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 全体：理学療法評価学実習Ⅱ オリエンテーション スタンダード プリコーション・健康管理 次回SGL説明			実際に手洗い、うがいを習慣化する。次回のSGLの準備をする			
2. SGL：医療面接（各担当教員が模擬患者①）計画・実施・事後練習			事前に医療面接するシナリオを作成しておく。事後に不十分な点をノートに記載する			
3. 全体：初期評価の流れの理解 次回SGL説明			配布された次回の資料を熟読する。			
4. SGL：バイタルサイン計測（各担当教員が模擬患者②）計画・実施・事後練習			事前に脈拍・血圧測定の手順と進め方を予習しておく。事後に不十分な点をノートに記載する。			
5. 全体：記録と報告の書き方 次回SGL説明			配布された資料から個別に障害を想起する。			
6. SGL：姿勢観察から障害を想起（各担当教員が模擬患者③または静止画）			グループで想起した障害を評価する検査・測定をリストアップしておく。			
7. 全体：初期評価の事例 演習その1 検査項目 次回のSGL説明			必要と思われる検査測定の手順を確認しておく。			
8. SGL：想起した障害に対する検査・測定項目の取捨選択と意義づけ・練習			SGLで実技のフィードバックを受けたことをノートに整理しておく。			
9. 全体：初期評価の事例 演習その2 統合と解釈 次回のSGLの説明			事例の統合と解釈のロジックツリーを完成させる。配布された資料から個別に予想される障害とその検査・測定項目を考えておく。			
10. SGL：動作観察から障害を想起（各担当教員が模擬患者④または動画）			事前に動画を検査測定の目的を確認し、実技練習できるように準備する。事後に不十分な点をノートに記載する			

11. 全体：初期評価の事例 演習その3 統合と解釈 障害構造		プレ実習の症例のロジックツリーを作成する。			
12. SGL:想起した障害に対する検査・測定項目の取捨選択と意義づけ・練習		SGL で実技のフィードバックを受けたことを整理しておく。			
13. 3年次実習症例報告会への参加		3年生実習に向けての情報をもらう。			
14. 全体：初期評価の事例 演習その4 ICFの作成		プレ実習の症例のICFを作成する。			
期末試験					
15. 全体：統括およびフィードバック（定期試験の解答・解説）		再度、初期評価の流れを確認しておく。			
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 20%	☐ レポート 0%	☒ 定期試験 60%	☒ その他 20%
	基準等	毎週の個人レベルの課題への取り組み状況	初期評価個人レポート	筆記試験	SGLの取組状況
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	潮見泰蔵ほか	「リハビリテーション基礎評価学第2版」		羊土社	2020
参考図書	斉藤栄一 監修	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編		金原出版	2015
	細田多穂 監修	理学療法評価学テキスト		南江堂	2010
履修要件等	実習要件2)を満たしていること				
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日 14:40~16:10		

科目No.	SPT02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	物理療法学		担当教員 E-Mail	肥田 光正 hidam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、物理療法に関する知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	理学療法の治療手段である物理療法について、その歴史と定義をふまえ、各物理療法手段における生理学的作用・目的・対象・適応・禁忌などを学習し、実際の治療にどのように適応していくことができるのかを学習する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理療法の歴史と定義を学習し、理学療法での位置付けを学習する 2. 各物理療法手段の生理学的作用を理解する 3. 各物理療法手段の目的・対象・適応・禁忌などを理解する 					
対面授業の 進め方	講義中心に授業をすすめ、必要時には、適宜、資料を配布する。毎回の授業開始時には、前回の復習を目的とした小テストを実施する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組み課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		45分以上	
1. 物理療法学総論① 物理療法の種類、物理療法の歴史や役割			小テストを実施するため、各授業後には必ず復習をしておくこと			
2. 物理療法の対象となる病態 ①-1 関節可動域制限のメカニズム						
3. 物理療法の対象となる病態 ①-2 関節可動域制限の評価						
4. 物理療法の対象となる病態 ②-1 疼痛 急性痛とそのメカニズム						
5. 物理療法の対象となる病態 ②-2 疼痛 慢性痛とそのメカニズム						
6. 物理療法の対象となる病態 ③炎症、筋緊張						
7. 温熱療法総論						
8. 温熱療法各論 表在性温熱療法						
9. 温熱療法各論 深達性温熱療法 ①極超短波療法						
10. 温熱療法各論 深達性温熱療法 ②超音波療法						
10. 寒冷療法と水治療法						
11. 電気刺激療法総論						
12. 電気刺激療法 TENS と NMES, バイオフィードバック療法						
14. 圧迫療法, 牽引療法						
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15 %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 5 %	
	基準等	授業開始時に小テストを実施する。		授業で教授した範囲から出題する。		授業態度、授業参加の積極性を総合して評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	庄本康二ほか	エビデンスから身につける物理療法		羊土社	2017	
参考図書	松澤 正ほか	「物理療法学」改訂第3版		金原出版	2012	

履修要件等	特になし		
研究室	3号館2階 第27研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 13:00 ~ 14:30

科目No.	SPT03-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	物理療法学実習		担当教員 E-Mail	肥田 光正・今岡 真和 hidam@kawasakigakuen.ac.jp imaokam@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、物理療法の基本的な知識と手法、適切な物理療法を適用するためのクリニカルリーズニングについて講義する。					
授業内容の要約	2年生前期で学習した物理療法の使用手順を実践する。物理療法機器の操作と被験者体験を通し、治療場面における対象者への配慮、オリエンテーション、方法の工夫等、実施上の理解を深める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健常者に対して、正しい手順で各種物理療法を実践することができる 2. 各種物理療法の適応、禁忌事項を説明できる 3. 臨床場面で遭遇することの多い症状に対して適切な物理療法を選択できる 					
対面授業の 進め方	少人数グループに分かれ、各種物理療法を正しい手順でグループワークの形式で実践する。教科書の手順を熟読しながら物理用法を実践し、毎回の授業後には実施レポートの提出を求める。授業の後半では、実際の症例の問題点を呈示し、解決するために必要な物理療法についてのプレゼンテーションを実施する機会を設ける。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。実技の習得には学生自身の学修が重要であるため、学生にも練習風景を動画で撮影してもらい、適宜教員が指導を行う。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 理学療法の進め方について						
2. 実習前オリエンテーション(授業概要説明とレポート課題の提示)						
3. 各機器構造と取り扱い方法・手順の説明						
4. 物理刺激と生体反応 ① 温熱療法 ホットパック、パラフィン浴				①に対するレポート課題		
5. 物理刺激と生体反応 ② 高周波療法 極超短波				②に対するレポート課題		
6. 物理刺激と生体反応 ③ 高周波療法 超音波				③に対するレポート課題		
7. 物理刺激と生体反応 ④ 寒冷療法 コールドパック、クリッカー				④に対するレポート課題		
8. 物理刺激と生体反応 ⑤ 水治療法 全身浴、部分浴				⑤に対するレポート課題		
9. 物理刺激と生体反応 ⑥ 電気療法 低周波療法(TENS)				⑥に対するレポート課題		
10. 物理刺激と生体反応 ⑦ 電気療法 低周波療法(EMS)				⑦に対するレポート課題		
11. 物理刺激と生体反応 ⑧ 牽引療法 腰椎、頸椎牽引				⑧に対するレポート課題		
12. スポーツ障害に対する物理療法適応の考え方				スポーツ障害の復習		
13. 各種運動器疾患に対する物理療法適応の考え方				各種運動器疾患の復習		
14. 各種中枢神経疾患に対する物理療法適応の考え方				各種中枢神経疾患の復習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		■レポート 20%		■定期試験 70%
	基準等			各レポートの提出状況と内容を吟味する。		授業中に教授した範囲から出題する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	庄本康二ほか	エビデンスから身につける物理療法		羊土社		2017

参考図書	Michelle H. Cameron 原著／ 渡部一郎 訳	EBM 物理療法	医歯薬出版	2015
	松澤 正ほか	「物理療法学」	金原出版	2012
履修要件等	物理療法学を履修済みであることが望ましい。			
研究室	3号館2階 第27研究室	オフィスアワー	毎週月曜日	13:00 ~ 14:30
	研究科棟4階 143研究室		毎週水曜日	12:00 ~ 13:00

科目No.	SPT05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次			
授業科目名	運動療法学実習		担当教員 E-Mail	小太 武陸 komatut@kawasakigakuen.					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)			
教員の実務経験と授業内容の関連	急性期から在宅リハの経験を活かし、共通する基本的な治療技術の面白さとリスクを伝える。								
授業内容の要約	理学療法の中心的そして、基本的な技術である運動療法を2年次で履修した「運動療法学総論」を基本に進めていく。この授業は実習であるが、理論と手技を併せて学習するという観点から、講義と実習を交えて授業を行う。								
学修目標 到達目標	1. 運動療法の目的や基本原理を理解することができる 2. 基本的な運動療法を説明、実施ができる 3. 基本的な運動療法を実施するにあたっての注意、禁忌の理解ができる								
対面授業の 進め方	演習、講義、ケーススタディ学習								
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Teams オンライン形式と forms オンデマンド形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明し、実技は動画や模倣にて説明する。								
授業計画			授業時間外に必要な学修			5時間以上			
1. 運動療法総論の総復習			運動療法学総論の復習						
2. 関節運動の基礎原理			授業の復習						
3. ROMエクササイズ(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
4. ROMエクササイズ(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
5. ROMエクササイズ(下肢) 講義と演習			授業の復習						
6. ROMエクササイズ(下肢) 講義と演習			授業の復習						
7. ストレッチング(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
8. ストレッチング(下肢) 講義と演習			授業の復習						
9. 3~8までのまとめ実技テストとレポート			3~8までの復習とテスト						
10. 抵抗運動(上肢・体幹) 講義と演習			授業の復習						
11. 抵抗運動(下肢) 講義と演習			授業の復習						
12. 機能向上運動Ⅰ(バランス訓練・初動負荷・終動負荷)			授業の復習						
13. 機能向上運動Ⅱ(バランス訓練・初動負荷・終動負荷)			授業の復習						
14. 持久力トレーニング			授業の復習						
定期試験(期末レポート)									
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			全授業の復習						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	40%	■定期試験	10%	■その他	50%
	基準等			1回の課題レポート提出		期末テストは全授業の課題レポート		1回の実技テスト	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	Carolyn Kisnerほか	最新運動療法大全 I 基礎編 第六版			GAIA BOOKS	2012			
参考図書									
履修要件等	学校のジャージで参加すること。								
研究室	1号館4階 第3研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50					

科目No.	SPT06-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	日常生活活動学		担当教員 E-Mail	久利 彩子 hisaria@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障がいをもつ患者の日常生活活動に着目した理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、日常生活活動の基礎について、講義する。					
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者様の日常生活活動(ADL)を理解することが必須である。当該授業では、ADLの概念、日常生活活動の評価の考え方と方法、基本動作とセルフケア、生活環境整備、身体活動量、代表的な疾患・障害における日常生活活動について、学習する。理学療法士にとって必要な「ADL」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日常生活活動(ADL)の概念や日常生活活動の評価の考え方と方法を述べることができる。 日常生活活動における基本動作やセルフケア、代表的な疾患・障害における日常生活活動の概要を述べることができる。 生活環境整備や身体活動量について述べることができる。 代表的な疾患・障害における日常生活活動について述べることができる。 					
対面授業の 進め方	授業は、基本的に講義形式で行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション、日常生活活動の概念 (教科書 pp1-20)				予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:配布資料と教科書の該当箇所について、復習をすること。		
2. 日常生活活動の評価① 日常生活活動評価の概要 (教科書 pp21-43)						
3. 日常生活活動の評価② BI (教科書 pp44-47)						
4. 日常生活活動の評価③ FIM (教科書 pp47-72)						
5. 基本動作とセルフケア① 起居動作 (教科書 pp73-93)						
6. 基本動作とセルフケア② 移乗動作 (教科書 pp94-106)						
7. 基本動作とセルフケア③ 移動動作・歩行 (教科書 pp107-118)						
8. 基本動作とセルフケア④ 安全な介助方法 (教科書 pp119-126)						
9. 基本動作とセルフケア⑤ セルフケアとIADL (教科書 pp135-134)						
10. 生活環境整備① 義肢装具と歩行補助具 (教科書 pp139-161)						

11. 生活環境整備② 車いす・座位保持装置・日常生活用具・自助具・住宅改修と家庭環境の整備 (教科書 pp162-194)								
12. 身体活動の増進 (教科書 pp195-220)								
13. 代表的な疾患・障害における日常生活活動① 片麻痺・脊損・脊椎・脊髄疾患・関節リウマチ・変形性関節症・切断 (教科書 pp221-296)								
14. 代表的な疾患・障害における日常生活活動② 脳性麻痺・呼吸器疾患・循環器疾患・神経筋疾患・高次脳機能障害・認知症 (教科書 pp297-350)								
定期試験 (期末レポート)								
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)								
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☒ 定期試験 100 %	☐ その他	%
	基準等					筆記試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年		
	編集 臼田 滋	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学			MEDICAL VIEW			
参考図書	編集 細田多穂	「日常生活活動学テキスト」			南江堂			
履修要件等								
研究室	1号館5階 第9研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50			

科目No.	SPT07-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次	
授業科目名	日常生活活動学実習		担当教員 E-Mail	久利 彩子 hisaria@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	障がいをもつ患者の日常生活活動に着目した理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、日常生活活動の基礎について、実習指導する。						
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者さんの日常生活活動(ADL)を理解することが必須である。当該授業では、ADL動作能力維持改善のための介助と練習・指導の実技を行う。さらに、ADLを支援する機器の実物を手に取り、概要を学ぶ。理学療法士にとって必要な「ADL障害へのかわり」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。						
学修目標 到達目標	1. ADL動作練習の基本的な考え方や基本的な練習・指導方法が実施できるようになる。 2. ADLを支援する基本的な機器が説明できるようになる。						
対面授業の 進め方	授業は、基本的に実習形式で行う。アクティブラーニング(グループワーク、ディスカッション)の手法を用いる。授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。屋外での実習を予定しているため、天候によっては授業内容の変更を行う。						
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. オリエンテーション 車いすと杖の概要				復習：配布資料と授業中のメモを、ノートにまとめなおすこと。			
2. 車いす利用体験と動作練習・指導							
3. 歩行補助具と歩行練習・指導							
4. ロービジョン体験と動作練習・指導							
5. 福祉用具の適応とその代償機能							
6. 姿勢と基底面圧分布							
7. 寝返りの動作練習・指導							
8. 起き上がりの動作練習・指導							
9. 端座位保持・起立・着座の動作練習・指導							
10. 立位保持・移乗の動作練習・指導							
11. 歩行の動作練習・指導							
12. 住環境や生活環境を想定した練習・指導							
13. 疾患別動作練習と指導 (中枢神経障害・骨関節障害)							
14. 疾患別動作練習と指導 (神経筋疾患・認知症・その他)							
定期試験(期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	☐ レポート	☒ 定期試験	100%	☐ その他	%
	基準等			筆記・実技試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	編集 臼田 滋	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学	MEDICAL VIEW	
参考図書	編集 細田多穂	「日常生活活動学テキスト」	南江堂	
履修要件等				
研究室	1号館5階 第9研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50	

科目No.	SPT08-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	義肢装具学		担当教員 E-Mail	酒井 桂太 sakaik@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として義装具の実務経験のある教員が指導にあたる。						
授業内容の要約	リハビリテーション医療や福祉分野で取り扱う義肢装具を中心に、その目的や構造・機能・種類や特徴について理解する。一般的な義肢装具の処方、適応、適合判定などの基本を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 義肢装具の目的・構造の概略について述べることができる 2. 義肢装具の機能・種類の概略について述べることができる 3. 義肢装具の適応・適合判定項目について述べるができる						
対面授業の 進め方	講義および実際の装具の名称や構造を確認し、適合判定を行う。教科書の各ページを事前に一読して予習すること。実習では、グループごとに各課題についてディスカッションし、課題発表を行う。なお、「義肢装具学」では装具を中心に学び、「義肢装具学実習」では義肢を中心に学ぶ。						
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は対面授業同様にパワーポイントにて、教科書に沿った解説を行い、授業ノートを作成する。装具の実物やその調整については、デモンストレーションを中心に行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 装具学総論 (教科書 pp1-8)			定義、分類について復習する				
2. 下肢装具の部品とその機能 (教科書 pp11-18)			部品の名称と機能を復習する				
3. 短下肢装具 (教科書 pp21-30)			AFOの種類と特徴について復習する				
4. 長下肢装具 (教科書 pp31-37)			KAFOの種類と適応について復習する				
5. 股装具・膝装具 (教科書 pp37-40)			各装具の目的と適応を復習する				
6. 靴型装具 (教科書 pp41-51)			靴型装具の種類と適応を復習する				
7. 体幹装具 (教科書 pp73-83)			体幹装具の種類と適応を復習する				
8. 上肢装具 (教科書 pp85-90)			上肢装具の種類と適応を復習する				
9. 実習 各種装具の名称と構造の確認			KAFOの各名称を復習する				
10. 実習 膝継手・足継手の調整			膝継手と足継ぎ手の調節方法を復習する				
11. 車椅子 (教科書 pp95-101)			車いすの各名称と適合判定を復習する				
12. 下肢装具のチェックアウト pp53-61			チェックアウトの内容を復習する				
13. 実習 長下肢装具の調整とチェックアウト (教科書 pp63-71)			チェックアウトの流れを復習する				
14. 実習 川村義肢による陰性モデル作成			装具作成過程を復習する (教科書 pp151-160)				
定期試験 (期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	☑定期試験 100%	□その他 %
	基準等					筆記試験にて授業の内容全般について理解度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	石川朗他編	「装具学」		中山書店		2020	
参考図書	細田多穂監修	「義肢装具学テキスト」		南江堂		2017	
履修要件等	解剖学・生理学・運動学・整形外科学・内科学が履修済みであることが望ましい						
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14:40~16:10			

科目No.	SPT09-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	義肢装具学実習		担当教員 E-Mail	村西 壽祥 muranishih@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が講義を行う。					
授業内容の要約	切断および義肢についての基礎知識を習得し、切断者に対する評価および理学療法について学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 下肢切断について、その対象となる病態について説明できる 2. 義足について、構造および機能的役割を説明できる 3. 義足に関する理学療法評価および理学療法が説明できる					
対面授業の 進め方	講義は教科書と板書を中心に進める。 切断原因となる疾患と対象者の特性を理解することが重要となる。 切断による身体への影響について、解剖学的理解が重要となる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、授業のオンデマンド配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論, 切断の原因			復習: 切断原因となる疾患の特徴			
2. 切断部位と切断術			復習: 切断部位毎の特徴, 切断による影響			
3. 大腿切断と大腿義足①(膝継手: 立脚制御)			復習: 膝継手の役割と立脚相の制御因子			
4. 大腿切断と大腿義足②(膝継手: 遊脚制御)			復習: 膝継手の役割と遊脚相の制御因子			
5. 大腿切断と大腿義足③(大腿ソケット)			復習: 大腿ソケットの種類と構造			
6. 下腿切断と下腿義足①(下腿ソケット)			復習: 下腿ソケットの種類と構造			
7. 下腿切断と下腿義足②(足部)			復習: 足部・足継手の種類と役割			
8. 切断者に対する評価①(全体評価)			復習: 切断者に対する理学療法評価方法			
9. 切断者に対する評価②(断端評価)			復習: 断端の評価方法			
10. 切断のリハビリテーション①(断端管理)			復習: 断端の管理方法, 弾性包帯について			
11. 切断のリハビリテーション②(立位・歩行練習)			復習: 立位・歩行練習の進め方			
12. 義足の異常歩行①(下腿義足)			復習: 下腿義足の異常歩行の種類と原因			
13. 義足の異常歩行②(大腿義足)			復習: 大腿義足の異常歩行の種類と原因			
14. 特別講義(川村義肢より講師派遣)						
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	毎回, 授業内で行う小テストの平均点を定期試験テストに加算する.		記述試験のみ(記号問題, 選択問題は実施しない), 解答は説明することを求める		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	細田多穂ほか	「義肢装具学テキスト改訂第3版」		南江堂	2018	
参考図書	伊藤利之	「義肢装具のチェックポイント 9版」		医学書院	2021	
履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ, 解剖学実習Ⅰ・Ⅱ, 機能運動学Ⅰ					
研究室	1号館5階 第21研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SPT12-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	運動器系理学療法学		担当教員 E-Mail	峰久 京子 minehisak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で理学療法士として23年の臨床経験がある教員がその経験を活かして、運動器系の疾患・障害の概要とその評価・治療について指導する。					
授業内容の要約	代表的な運動器系の疾患・障害の概要について学習する 代表的な運動器系の疾患・障害を理解し、理学療法の評価・治療について学習する					
学修目標 到達目標	1. 代表的な運動器系疾患・障害の概要を説明できる 2. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法評価を説明できる 3. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法治療を説明できる					
対面授業の 進め方	教科書を中心とした講義形式で行い、授業の終わりに確認テストを実施する 事前に教科書を読み、疑問を持って授業に取り組むこと。復習としてノート整理を行うこと。					
遠隔授業の 進め方	Microsoftoffice365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、teamsに紐づけられたClass Notebookに授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション、総論① 運動器障害理学療法とは・組織修復・治癒過程 (教科書 p2~39)				予習：教科書 p2~39 を読む 復習：ノート整理、運動器障害の基礎的知識、基本的な考え方を学習する。組織修復・治癒過程についてまとめる。		
2. 総論② 骨折・脱臼総論 (教科書 p40~58)				予習：教科書 p40~58 を読む 復習：ノート整理、骨折、脱臼の定義、分類、症状、治療についてまとめる。		
3. 各論① 上肢の骨折：疾患の概要・評価と治療 (教科書 p60~103)				予習：教科書 p60~103 を読む 復習：ノート整理、上肢骨折の概要、評価、治療についてまとめる。		
4. 各論② 大腿骨骨折 (1)：大腿骨近位部骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p104~166)				予習：教科書 p104~166 を読む 復習：ノート整理、大腿骨近位部骨折の概要、評価、治療についてまとめる。		
5. 各論③ 大腿骨骨折 (2)：大腿骨骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p104~166)				予習：教科書 p104~166 を読む 復習：ノート整理、大腿骨骨折の概要、評価、治療についてまとめる。		
6. 各論④ 膝・下腿骨骨折：膝・下腿骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p168~189)				予習：p168~189 を読む 復習：ノート整理、膝・下腿骨骨折の概要・評価と治療についてまとめる。		
7. 総論③ 変形性関節症総論 (教科書 p190~204, p 240~253)				予習：教科書 p190~204, p 240~253 を読む 復習：ノート整理、変形性関節症の定義、分類、症状、治療についてまとめる。		

8. 各論⑤ 変形性股関節症：疾患の概要、保存療法と観血的療法、理学療法評価と治療（教科書 p190～239）		予習： p190～239 を読む 復習：ノート整理、変形性股関節症の概要、評価、治療についてまとめる。			
9. 各論⑥ 変形性膝関節症：疾患の概要、保存療法と観血的療法、理学療法評価と治療（教科書 p240～275）		予習：教科書 p240～275 を読む 復習：ノート整理、変形性膝関節症の概要、評価、治療についてまとめる。			
10. 各論⑦ 肩関節疾患①肩関節周囲炎：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p276～311）		予習：教科書 p276～311 を読む 復習：ノート整理、肩関節周囲炎の概要、評価、治療についてまとめる。			
11. 各論⑧ 肩関節疾患②.肩板断裂・非外傷性不安定症：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p312～369）		予習：教科書 p312～369 を読む 復習：ノート整理、腱板断裂・非外傷性不安定症の概要、評価、治療についてまとめる。			
12. 各論⑨ 腰部・脊椎疾患：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p370～437）		予習：教科書 p370～437 を読む 復習：ノート整理、腰部・脊椎疾患の概要、評価、治療についてまとめる。			
13. 各論⑩ 膝靭帯・半月板損傷：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p438～469）		予習：教科書 p438～469 を読む 復習：ノート整理、膝靭帯・半月板損傷の概要、評価、治療についてまとめる。			
14. 各論⑪ 関節リウマチ：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p542～575）		予習：教科書 p542～575 を読む 復習：ノート整理、関節リウマチの概要、評価、治療についてまとめる。			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 20 %	☐ レポート %	☒ 定期試験 70 %	☒ その他 10 %
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業内容についての理解度を評価する。		定期試験を実施し、授業の内容全般についての理解度を評価する。	Class Note に記載された復習用ノートの評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	加藤 浩 編集	Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学		メジカルビュー社	2020
参考図書	島田洋一、高橋仁美 編	「改訂第2版 整形外科 術後理学療法プログラム」第3版		メジカルビュー社	2020
	細田 多穂 監修	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト		南江堂	2016
履修要件等	「運動療法学総論」「運動療法学実習」「機能運動学」「機能運動学実習」が履修済であることが望ましい。				
研究室	1号館5階 第7研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～12:50	

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ（PT）		担当教員 E-Mail	久利 彩子・古井 透・大籠 友博・岡 健司 hisaria@kawasakigakuen.ac.jp furuit@kawasakigakuen.ac.jp ohgomorit@kawasakigakuen.ac.jp okak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連	障がいを持つ患者の理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、理学療法の基礎について、演習を通じて指導する。					
授業内容の要約	理学療法士に必要な知識、臨床的思考を深め、解剖学・生理学・運動学の知識および検査測定技術を再学習し、理学療法士としての素地を作る。学生生活に関する情報共有の場としても活用する。					
学修目標 到達目標	1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、技術、臨床的思考を身につける。 2. 運動や動作を理解するために必要な、解剖学・生理学・運動学の知識を固める。					
対面授業の 進め方	課題（小テスト・実技テスト）を中心に行う。また、学生生活に関する情報共有の場として、学生主体に展開する時間帯もある。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画					授業時間外に必要な学修	30分以上
1. オリエンテーション					課題範囲についてしっかり予習し、授業中に実施する小テスト・実技テストで、実力を確認して内容を振り返り、知識技術を補うこと。	
2. 前期履修科目・スケジュールの確認（個別面談）						
3. 検査・測定の基盤知識（骨・関節）（p3～21）						
4. 検査・測定の基盤知識（運動学：筋）（p22～50）						
5. 検査・測定の基盤知識（運動学：関節（上肢））（p51～90）						
6. 検査・測定の基盤知識（運動学：関節（下肢・体幹）、筋の作用）（p91～137）						
7. 検査・測定の基盤知識（運動学：姿勢と歩行とバイメカ）（p138～192）						
8. 検査・測定の基盤知識（神経と感覚：神経の興奮伝導・中枢神経系）（p203～249）						
9. 検査・測定の基盤知識（神経と感覚：末梢神経・反射と筋活動・感覚）（p251～317）						
10. 検査・測定の基盤知識（神経と感覚：呼吸と循環（呼吸））（p325～352）						
2. 検査・測定の基盤知識（血圧・脈拍）A実技・B知識						
3. 検査・測定の基盤知識（血圧・脈拍）B実技・A知識						
4. 検査・測定の基盤知識（ROM・形態計測）A実技・B知識						
5. 検査・測定の基盤知識（ROM・形態計測）B実技・A知識						
6. 検査・測定の基盤知識 まとめテスト						
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 90%		☐ レポート %		
	基準等	授業中に実施する課題（小テスト・実技テスト）で評価する。				その他 10% 提出物等
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		リハビリテーション基礎評価学		羊土社		
参考図書		基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編		南江堂		
履修要件等						
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ(P T)		担当教員 E-Mail	久利 彩子・古井 透・大籠 友博・岡 健司 hisaria@kawasakigakuen.ac.jp furuit@kawasakigakuen.ac.jp ohgomorit@kawasakigakuen.ac.jp okak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床実習	必修	1単位	後期 (30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	障がいをもつ患者の理学療法に携わった経験と専門知識を持つものが、理学療法の基礎について、演習を通じて指導する。					
授業内容の要約	臨床検査・測定実習に向けて、事務手続きを行うとともに、理学療法士に必要な知識、臨床的思考を深め、検査測定知識・技術を再学習し、理学療法士としての素地を作る。学生生活に関する情報共有の場としても活用する。					
学修目標 到達目標	1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、技術を身につける 2. 臨床検査・測定実習の事務手続きを確実に行う					
対面授業の 進め方	基本的に授業は演習形式で行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション				授業で実施した内容を振り返り、知識技術を補うこと。実習事務手続きは、責任を持って確実に実施すること。		
2. 臨床検査・測定実習説明と手続き・血圧・脈拍測定 実技テスト						
3. 臨床検査・測定実習説明と手続き・形態計測 実技テスト						
4. 臨床検査・測定実習説明と手続き・ROM 実技テスト						
5. 臨床検査・測定実習説明と手続き・MMT 実技テスト						
6. 臨床検査・測定実習説明と手続き・腱反射・病的反射 実技テスト						
7. 臨床検査・測定実習説明と手続き・BST・筋緊張 実技テスト						
8. 臨床検査・測定実習説明と手続き・感覚検査 実技テスト						
9. CBT1						
10. 解剖実習見学オリエンテーション						
11. 解剖実習見学						
12. CBT2						
13. 臨床検査・測定実習説明と手続き・形態計測・ROM 実技テスト						
14. 臨床検査・測定実習説明と手続き・MMT 実技テスト						
15. 実習前最終ガイダンス						
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 100%	☐ レポート %	☐ 定期試験 %	☐ その他 100 %	
	基準等	授業中に実施する小テスト・実技テスト・実習に関する提出物・CBTで評価する。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		実習のてびき				
参考図書	野村 巖、編	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」		医学書院		
	潮見泰蔵、他	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社		

	Hislop ら	「新徒手筋力検査法 原著第9版」	協同医書	
履修要件等	臨床検査・測定実習に参加見込みであること			
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

科目No.	SCP07-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床検査・測定実習 (PT)		担当教員 E-Mail	酒井 桂太・理学療法学専攻教員 sakaik@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	3単位	後期 (135h) 3週間
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者が指導にあたる。					
授業内容の要約	診療参加型臨床実習をとおして、理学療法士の業務内容、役割、位置づけ、社会的責任等の理解を深める。さらに、臨床場面において検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な技術を経験し、症例に応じた検査・測定の適応や方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法における検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な検査・測定（手順や方法）を実施することができる。 2. 検査・測定結果と障害との関連性を国際機能分類に準じてまとめ、その内容を説明できる。					
対面授業の 進め方	実地体験学習。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。					
遠隔授業の 進め方	学内代替実習になった場合は、実習担当教員が Teams のクラスノートブックを活用して、日々の課題の提出と添削をおこなう。また、オンラインにて双方向の実習指導を個別および少人数にておこなう。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分程度
実習前評価として、筆記試験と実技試験を行う。 3週にわたり医療提供施設等で検査・測定実習を行う。 実習後評価として、筆記試験およびレジュメ発表会を行う。				毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。 実習報告会用のレジュメをA3用紙1枚にまとめる。 不十分な基礎知識を自己学習する。		
成績評価方法	項目	☒ 課題・小テスト 10%	☐ レポート %	☐ 定期試験 %	☒ その他 90%	
	基準等	筆記試験（実習後評価分）		実習目標達成状況 （実習中の取り組み・臨床実習成果記録・レジュメ発表） を総合的に評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		「臨床実習の手引き 第5版」				
		「臨床実習の手引き 理学療法学専攻 2022年度版」				
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	実習要件2) を満たしていること					
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14:40~16:10		

科目No.	SBO03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	作業療法運動学		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟 shiraiwak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	作業療法士として実務経験のある教員が講義を行う					
授業内容の要約	身体障害分野の作業療法に必要な身体運動の基礎を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動の基礎を深めることができることを目指す 2. 作業療法に必要な身体運動機能の分析力を身につけることを目指す					
対面授業の 進め方	身体運動を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる、身体構造を学んでいく。 日常生活から身体の運動の視点をもっておくこと。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。 第1回～第14回は遠隔で授業を行い、第15回はセクションのまとめとして対面授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、授業終盤に配信する課題の提出をもって行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 運動学の基礎			復習：運動学の基礎を理解する			
2. バイオメカニクス			復習：バイオメカニクスを理解する			
3. 上肢帯の運動			復習：上肢帯の筋と関節の相互作用を理解する			
4. 肩関節の運動			復習：肩関節の筋と関節の相互作用を理解する			
5. 肘関節の運動			復習：肘関節の相互作用を理解する			
6. 手関節と手の運動			復習：肩複合体の周囲の骨と筋を理解する			
7. 股関節の運動			復習：股関節の筋と関節の相互作用を理解する			
8. 膝関節の運動			復習：膝関節の筋と関節の相互作用を理解する			
9. 足関節と足の運動			復習：足関節の筋と関節の相互作用を理解する			
10. 体幹の運動			復習：体幹の筋と関節の相互作用を理解する			
11. 胸椎と胸部の運動			復習：胸椎の筋と関節の相互作用を理解する			
12. 腰椎の運動			復習：腰椎の筋と関節の相互作用を理解する			
13. 運動学習			復習：運動学習を理解する			
14. 運動の中枢神経系機構			復習：運動の中枢神経系機構を理解する			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 20%	■定期試験 60%	■その他 10%	
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。	各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	島田智明(翻訳)	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版		医歯薬出版	2018	
参考図書	中村隆一 他	基礎運動学 第6版補訂		医歯薬出版	2012	
履修要件等						
研究室	1号館5階 共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	SBO04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次			
授業科目名	作業療法運動学演習		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟 shiraiwak@kawasakigakuen.ac.jp					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	後期(16h)			
教員の実務経験と授業内容の関連	作業療法士として実務経験のある教員が講義を行う								
授業内容の要約	日常生活の基礎となる正常動作の分析の基礎を学ぶ。								
学修目標 到達目標	1. 正常運動の基礎を深めることを目指す。 2. 作業療法に必要な動作分析力を身につけることを目指す。								
対面授業の 進め方	正常運動の基礎を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる動作を学ぶ。 日常生活から正常運動に関する視点をもっておくと授業に参加しやすい。 また、動作分析を促すために学生同士でグループワークを取り入れて学ぶ。								
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。第1回～7回は遠隔で授業を行い、第8回はセクションのまとめとして対面授業を行う。遠隔授業時の出席確認は、授業終盤に配信する課題の提出をもって行う。								
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上				
1. 歩行の運動学的分析				復習：歩行の運動学的分析について理解する					
2. 歩行の運動力学的分析				復習：歩行の運動学的分析について理解する					
3. 歩行時の筋活動				復習：歩行時の筋活動について理解する					
4. 寝返りの動作分析				復習：寝返りの動作分析について理解する					
5. 起き上がりの動作分析				復習：起き上がりの動作分析について理解する					
6. 起立・着座の動作分析				復習：起立・着座の動作分析について理解する					
7. 姿勢分析				復習：姿勢分析について理解する					
定期試験(期末レポート)									
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	30%	■定期試験	60%	■その他	10%
	基準等			各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。		定期試験は筆記試験で実施する。		授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	石井真一郎(編著)	動作分析臨床活用講座			メディカルビュー		2013		
参考図書	島田智明(翻訳)	筋骨格系のキネシオロジー			医歯薬出版		2012		
履修要件等									
研究室	1号館5階 共同研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00				

科目No.	SBO07-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	応用作業分析学実習		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・大類 淳矢 takeim@kawasakigakuen.ac.jp oruiz@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	前期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が10年以上ある教員が、その経験を活かして、作業分析の基本的な知識と手法について指導する。					
授業内容の要約	作業療法における作業と作業分析の位置づけを確認し、分析する各項目の考え方を整理したうえで実際に活動し分析を進めていく。治療として作業活動を用いるための基礎を学修する。					
学修目標 到達目標	1. 作業分析の臨床的な意義について理解し説明ができる 2. 適切な手順にしたがって作業分析ができる 3. 作業分析から作業の特徴を捉え、作業の治療的応用について考察することができる					
対面授業の 進め方	講義後に作業活動実習と分析、グループ討論、発表を行う。 「楽しく真剣に」取り組むこと。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画				授業時間外に必要な学修	60分以上	
1. 作業分析とは、作業工程分析 講義・実習・分析 ぬりえ				グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
2. 作業分析の実際(基礎項目分析) 講義・実習・分析 ぬりえ				グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
3. 作業分析の実際(運動機能の分析) 講義						
4. 作業分析の実際(運動機能の分析) 実習・分析 折り紙				グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
5. 作業分析の実際(感覚知覚認知機能分析) 講義						
6. 作業分析の実際(感覚知覚認知機能分析) 実習・分析 切り絵				グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
7. 作業分析の実際(作業過程・作品の分析) 講義						
8. 作業分析の実際(作業過程・作品の分析) 実習・分析 貼り絵				グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
9. 作業分析の実際(コミュニケーション分析) 講義						
10. 作業分析の実際(コミュニケーション分析) 実習・分析 トランプ				グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
11. 作業分析の実際(リスクの分析) 講義						
12. 作業分析の実際(リスクの分析) 実習・分析 散歩				グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
13. 作業分析の実際(包括的作業分析) 実習 加々・百人一首・将棋						
14. 作業分析の実際(包括的作業分析) 分析 加々・百人一首・将棋				グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること		
15. 作業分析の実際(包括的作業分析) 実習 編み物1						

16. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 編み物 2	実習内容を復習し、技法を習得すること				
17. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 編み物 3					
18. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 編み物	グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること				
19. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 調理 1					
20. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 調理 1	グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること				
21. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 調理 2					
22. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 調理 2	グループ討論をもとに実習内容・分析結果をレポートにまとめること				
23. 作業分析の実際（包括的作業分析）総括					
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☒ レポート 90%	☐ 定期試験 %	☒ その他 10%
	基準等		毎回レポートを課し評価する。		授業に臨む姿勢、グループ討論の参加態度を総合的に判断する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考図書	山根寛	「ひとと作業・作業活動 新版」		三輪書店	2017
	浅沼辰志	「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学 第3版」		メジカルビュー社	2021
	日本作業療法士協会	作業—その治療的応用 改訂第2版		協同医書出版社	2003
履修要件等	「基礎作業学」「基礎作業分析学実習」を履修済であることが望ましい。				
研究室	1号館5階 第18研究室（武井）	オフィスアワー	月曜日 12:10～13:00（武井）		
	1号館5階 第2共同研究室（大類）		木曜日 16:20～17:30（大類）		

科目No.	SOE02-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	作業療法評価学実習		担当教員 E-Mail	岸村 厚志 / 作業療法学専攻教員 kishimuraa@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	「臨床検査測定実習」が実施される前段階の科目(プレ実習)で、臨床現場の実務体験を基に学生が臨床で担当ケースに作業療法の評価(検査・測定)の実技体験を指導・振り返りを指導する。さらに身についた実技技術を試験(客観的臨床能力試験=OSCE)にて測り、臨床実習に臨めるように指導する。					
授業内容の要約	関連施設において身体障害分野、精神障害分野、または高齢期障害分野で評価学実習を実施する					
学修目標 到達目標	1. 対象者やスタッフに対して責任感のある行動・態度を身につけることができる 2. 作業療法士として必要な評価技術を体験し、臨床実践への応用力を培うことができる					
対面授業の 進め方	実習にふさわしい服装で臨むこと。特に、ケーシーや実習靴、施設側から指示された服装とする。臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に気を配ること。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信(症例の評価から治療計画の立案)の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 学内指導 1						
2. 学内指導 2				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
3. 関連施設にて評価実習						
4. 関連施設にて評価実習						
5. 学内指導 (FB) 3						
6. 学内指導 (FB) 4				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
7. 関連施設にて評価実習						
8. 関連施設にて評価実習						
9. 学内指導 (FB) 5						
10. 学内指導 (FB) 6				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
11. 関連施設にて評価実習						
12. 関連施設にて評価実習						
13. 学内指導 (FB) 7						
14. 学内指導 (FB) 8				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
15. 関連施設にて評価実習						
16. 関連施設にて評価実習						
17. 学内指導 (FB) 9						
18. 学内指導 (FB) 10				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
19. OSCE への事前準備				評価技術を計画的に実施できるように事前準備すること		
20. OSCE の試験						
OSCE の試験						
21. OSCE の FB						
22. プレ実習・OSCE の FB						

23. 総括及びフィードバック（評価学実習全般の総括）					
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☐ 定期試験 %	☒ その他 100 %
	基準等				関連施設でのプレ評価実習（実習評定表、出席日数、実習レポート、実習態度等）、及び OSCE の成績結果から総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		特になし			
参考図書		適宜配布する			
履修要件等	専門基礎科目系、基礎作業療法学系、作業療法評価学系の各科目を履修済みであることが望ましい				
研究室	各実習担当教員研究室		オフィスアワー	各実習担当教員オフィスアワー参照	

科目No.	SOE03-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	身体機能作業療法評価学		担当教員 E-Mail	嶋野 広一 shimanok@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(16h)
授業内容の要約	身体障害分野での主な疾患の作業療法評価を学ぶ。具体的には中枢性疾患、整形疾患等が原因の身体障害の特性を理解し、適切な評価技法(検査・測定など)を選択することができるようになる。					
学修目標 到達目標	1. 身体障害系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる 2. 対象者を考慮した評価を進めることができる 3. 疾患によって適切な評価技法を選択することができる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で実施する。授業は復習しながら進めていきますが、各自でも復習すること。また1年次の専門基礎分野も復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業ではパワーポイントを使い、対面授業での板書形式に対応します。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. ガイダンス、作業療法と評価について<教科書 pp3~35>			復習：作業療法評価についてまとめること			
2. 動作分析(起き上がり、立ち上がり)<教科書 pp82~166>			復習：動作分析についてまとめること			
3. 脳血管障害、頭部外傷の評価①<教科書 pp274~313>			復習：脳血管障害、頭部外傷の評価①についてまとめること			
4. 脳血管障害、頭部外傷の評価②<教科書 pp274~313>			復習：脳血管障害、頭部外傷の評価②についてまとめること			
5. 脊髄損傷、末梢神経損傷の評価<教科書 pp314~348>			復習：脊髄損傷、末梢神経損傷の評価についてまとめること			
6. 関節リウマチやその類似疾患の評価<教科書 pp349~377>			復習：関節リウマチやその類似疾患の評価についてまとめること			
7. その他の神経疾患、神経・筋疾患の評価<教科書 pp378~439>			復習：その他の神経疾患、神経・筋疾患の評価についてまとめること			
定期試験(実技試験)						
15. 総括及びフィードバック(試験の解説)						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☒ レポート 30 %	☒ 定期試験 70 %	☐ その他 %	
	基準等	なし	作業療法の身体障害領域のレポートを課す。	定期試験にて講義の理解度を評価する。	なし	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	岩崎テル子他	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」		医学書院	2017	
参考図書	佐竹勝 編	「ゴールド・マスター・テキスト 3 作業療法評価学 改訂第2版」		メジカルビュー社	2015	
	石井真一郎(編著)	「動作分析臨床活用講座」		メジカルビュー社	2013	
履修要件等	特になし。					
研究室	第24研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 10:40~12:10		

科目No.	SOE04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	身体機能作業療法評価学演習		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・嶋野 広一・水野 貴子 takeim@kawasakigakuen.ac.jp shimanok@kawasakigakuen.ac.jp mizunot@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員が、その経験を活かして、検査測定技術の実習を指導する。					
授業内容の要約	身体障害作業療法の臨床現場で実践されている種々の検査のうち、徒手筋力検査法(MMT)や、神経学的検査測定技術について学修する。					
学修目標 到達目標	1. 代表的な作業療法の検査・測定の目的・意義・実施方法などが理解できる 2. 健常者を対象に各種検査・測定が実施できる 3. 臨床実習で対象者と接する前段階において、実習生としての知識、技術、態度を修得する					
対面授業の 進め方	予習に基づく実技を中心に行う。2年次年度末の「臨床検査測定実習」に直結する内容なので、積極的に取り組むこと。身軽な服装(学校指定のジャージ上下・Tシャツ・タンクトップ・短パンなど)で実技に臨むこと。感染予防のために、(大学で準備する)手袋と、(自ら持参する)アイシールド(だてメガネ)とマスクを着用すること。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. ガイダンス、片麻痺機能テスト1: 上肢 <評価学 pp283~290>			予習: 教科書(評価学) pp283~290を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
2. 片麻痺機能テスト2: 下肢 <評価学 pp291~292>			予習: 教科書(評価学) pp291~292を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
3. 片麻痺機能テスト3: 手指 <評価学 pp293~295>・筋緊張検査 <ベッドサイド pp35~38>			予習: 教科書(評価学) pp293~295、教科書(ベッドサイド pp35~38)を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
4. 感覚・知覚検査 <評価学 pp114~129、ベッドサイド pp93~103>			予習: 教科書(評価学) pp114~129、教科書(ベッドサイド) pp93~103を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
5. 協調性検査 <評価学 pp160~167>			予習: 教科書(評価学) pp160~167、pp204~206を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
6. STEF <評価学 pp204~206>			予習: 教科書(評価学) pp204~206を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
7. 反射・姿勢反射検査 <評価学 pp130~150、ベッドサイド pp67~93>			予習: 教科書(評価学) pp130~150、教科書(ベッドサイド) pp67~93を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			

8. MMT1：目的・意義・判断基準について <評価学 pp104～120> 肩甲帯 <目で見る MMT pp46～66>		予習：教科書（評価学） pp104～120、教科書（目で見る MMT） pp46～66 を予め読んでおくこと						
9. MMT2：肩関節 <目で見る MMT pp67～98>		予習：教科書（目で見る MMT） pp67～98 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
10. MMT3：肘関節・前腕・手関節 <目で見る MMTpp99～121>		予習：教科書（目で見る MMT） pp99～121 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
11. MMT4：手指・体幹・股関節 1 <目で見る MMT pp27～43、pp123～155>		予習：教科書（目で見る MMT）、 pp27～43、pp123～155 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
12. MMT5：股関節 2・膝関節 1 <目で見る MMTpp157～179>		予習：教科書（目で見る MMT） pp157～179 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
13. MMT6：膝関節 2・足関節・足部 <目で見る MMTpp181～199>		予習：教科書（目で見る MMT） pp181～199 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
14. 期末テストについて、総復習								
定期試験（実技試験）								
15. 総括及びフィードバック（実技試験結果の発表と解説）								
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☒ 定期試験 100%	☐ その他	%
	基準等					定期試験は実技試験を実施する。詳細な評価基準は授業内で知らせる。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年		
	岩崎テル子 他	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」			医学書院	2017		
	田崎義昭 他編	「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」			南山堂	2017		
	佐藤三矢 監修	「新版 目で見る MMT」			医歯薬出版	2017		
参考図書	Hislop 他	「新・徒手筋力検査法 原著第10版」			協同医書出版社	2020		
	青木主税 他	「臨床で役立つ徒手筋力検査法 MMT ナビ」			ラウンドフラット	2017		
	伊藤俊一 監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series 3 MMT—頭部・頸部・上肢 第2版」			三輪書店	2016		
	伊藤俊一 監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series 4 MMT—体幹・下肢 第2版」			三輪書店	2016		
履修要件等	「解剖学」「生理学」「運動学」「作業療法評価学」を履修していることが望ましい。							
研究室	1号館5階 第18研究室（武井） 1号館2階 第24研究室（嶋野） 1号館4階 第5研究室（水野）	オフィスアワー			月曜日 12:10～13:00（武井） 火曜日 10:40～12:10（嶋野） 水曜日 12:10～12:50（水野）			

科目No.	SOE05-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	高次脳機能評価学		担当教員 E-Mail	水野 貴子 mizunot@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で19年の臨床経験のある教員がその経験を活かして高次脳機能障害の知識と評価技法を講義し、対象者への対応について指導する。					
授業内容の要約	脳損傷によって障害されるのは運動や感覚だけではない。記憶や言語、物や空間の認知、目的を持った行動などの高次脳機能も障害され、日常生活に大きな支障をきたす。本講義では、様々な高次脳機能障害について学習し、講義と検査実施と症例を通して、高次脳機能の評価の目的を理解し、日常生活の症状について推測できるようにする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害について具体的特徴をあげながら説明でき、日常生活を推測できる 2. 評価の目的を理解し、妥当性のある検査を選択できる 3. 検査を適切に実施・解釈でき、呈した日常生活の症状について説明することができる 					
対面授業の 進め方	講義（講義資料を随時配布、パワーポイント使用）、演習（机上検査の実施、映像による症例検討） 解剖学（脳）を復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	講義では Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 高次脳機能障害総論（脳の構造など） （教科書 pp3-5、10-11、27-31、31-37）			復習：高次脳機能障害の病巣部位を覚える			
2. 注意障害の症状とその評価1【TMTの実施】 （教科書 pp47-52、128-136）			復習：注意障害とTMTの実施方法について覚える			
3. 注意障害の症状とその評価2 【かなひろいテストの実施、症例検討】			復習：かなひろいテストの実施方法について覚える			
4. 半側空間無視などの症状とその評価1 （教科書 pp112-121）			復習：半側空間無視について覚える			
5. 半側空間無視などの症状とその評価2【BITの実施】			復習：BITの実施方法について覚える			
6. 半側空間無視などの症状とその評価3【症例検討】			復習：症例を通じた評価方法について考える			
7. 記憶障害の概念と評価1（教科書 pp56-62）			復習：記憶障害について覚える			
8. 記憶障害の概念と評価2【三宅式記銘力検査の実施】			復習：三宅式記銘力検査の実施方法について覚える			
9. 認知症の症状とその評価1（教科書 pp155-165）			復習：認知症について覚える			
10. 認知症の症状とその評価2【HDS-R、MMSEの実施】			復習：HDS-R、MMSEの実施方法について覚える			
11. 失語症のタイプと症状（教科書 pp68-78）			復習：失語症について覚える			
12. 失行の症状とその評価（教科書 pp81-90）			復習：失行について覚える			
13. 失認の症状とその評価（教科書 pp97-106）			復習：失認について覚える			
14. 脳CT・MRI画像の見方と外傷性脳損傷の特徴 （教科書 pp15-23）			復習：脳CT・MRI画像の見方と外傷性脳損傷の特徴について覚える			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						

成績 評価方法	項目	■小テスト 10%		■定期試験 90%	
	基準 等	復習のための小テストを随時実施し、 授業の内容についての理解度を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行
	能登真一	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」		医学書院	2019
参考図書	石合純夫	「高次脳機能障害学 第3版」		医歯薬出版	2022
	藤田郁代ほか	「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版」		医学書院	2021
	本田哲三	「高次脳機能障害のリハビリテーション ー実践的アプローチ第3版」		医学書院	2016
	渕雅子	「作業療法学全書 第8巻 高次脳機能障害 改訂第3版」		協同医書出版	2011
履修要件等	「形態・機能学解剖領域Ⅰ・Ⅱ」が履修済であることが望ましい。				
研究室	1号館4階 第5研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~12:50	

科目No.	SOE06-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	精神機能作業療法評価学		担当教員 E-Mail	井上 貴雄 inouet@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関での14年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者を支援するために必要な評価方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。精神障害を持つ対象者を支援するために必要な評価法の基礎的知識について習得する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害領域の作業療法について概論を理解できる 2. 精神障害領域における評価の目的と意義について説明できる 3. 精神障害領域における評価法の種類と適用について説明しできる 4. 精神障害領域における評価結果を適切に記録することができる 					
対面授業の 進め方	教科書および資料を用いて、精神障害領域における評価について学習する。学習のする上で、意見交換の場を設定し、アクティブラーニングを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序1(教科書①p85～p121)				復習:講義で配布した資料を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと		
2. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序2(教科書①p122～p154)				復習:講義で配布した資料を再度復習し,ポイントを整理しノートにまとめておくこと		
3. 精神障害領域における情報収集(教科書①p156～172)				予習:教科書①p156～172を読んでおく		
4. 精神障害領域における観察評価(教科書①p374～p383)				予習:教科書①p374～p383を熟読しておく		
5. 精神障害領域における面接評価(教科書①p173～186, p374～p383)				予習:教科書①p173～186を読んでおく		
6. 精神障害領域における検査測定①(精神症状評価尺度) 精神障害領				復習:配布された資料をもとに知識整理を行う		
7. 精神障害領域における検査測定①(機能評価尺度、心理検査尺度)				復習:配布された資料をもとに知識整理を行う		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)				これまでの全範囲を復習しておく		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 20 %	■定期試験 70 %	■その他 10 %	
	基準等		授業期間中に課し、授業期間終了に提出	授業(資料含む)・演習を行った範囲から出題	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	山根寛	「精神障害と作業療法 新版」	三輪書店	2017
参考図書	能登真一 ほか	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」	医学書院	2017
履修要件等	作業療法概論（1年次前期科目）を履修していることが望ましい。			
研究室	1号館5階 第13研究室	オフィスアワー	木曜日 12:10～13:00	

※教科書①：山根 寛「精神障害と作業療法 新版」

科目No.	SOE07-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	精神機能 作業療法評価学実習		担当教員 E-Mail	大類 淳矢・井上 貴雄 oruiz@kawasakigakuen.ac.jp inouet@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関での11年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者を支援するために必要な評価方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識及び技能を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。					
学修目標 到達目標	1. 精神障害者を対象とした作業療法評価の基本的なプロセスを理解し、説明することができる 2. 対象となる人や疾患と障害、及び環境や目的に応じて適切な評価方法を選択できる 3. 評価した結果について、第三者に適切に説明することができる 4. 自己を客観的に理解し、医療従事者として望ましい態度をとることができる					
対面授業の 進め方	教科書および配布資料を用いて講義および実習を行う。実習では検査者および被験者を体験し、意見交換することで自己を客観的に知る機会とする。また小グループで、症例を用いたアクティブラーニングを行い、適切な評価方法・手段の選択や実施、評価結果を統合・解釈できる能力を養う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 精神科医療保健福祉領域の現状、作業療法の治療構造			予習：精神機能作業療法評価学の復習をしておく			
2. 作業療法評価項目、情報収集、評価結果の記録(実習を含む) ※記録に関するレポート作成			予習：教科書①p166-173, ②p3-10を読む			
3. 観察(実習を含む) ※観察結果のレポート作成			予習：教科書①p187-195, ②p478-482を読む			
4. 作業面接(実習を含む) ※作業面接結果のレポート作成			予習：教科書①p179-186, ②p481-482を読む			
5. 面接(実技を含む)、「箱づくり法」概説			予習：教科書①p173-179, ②p482-485を読む			
6. 「箱づくり法」実習 ※箱づくり法のレポート作成			予習：教科書①p179-186, ②p496を読む			
7. 検査・測定①(精神症状評価尺度：BPRS,PANSS,HAM-D など) (実習を含む)			予習：教科書②p486-497を読む			
8. 検査・測定②(生活機能評価尺度：LASMI,Rehab,GAF など) (実習を含む)			同上			
9. 検査・測定③(作業検査:UBOM など,パーソナリティ検査:Rorschach test など)(実習を含む)			同上			
10. 検査・測定④(神経認知機能評価:BACS)(実習を含む) ※BACS 評価体験のレポート作成			予習：教科書②p489-490を読む			
11. 集団の評価(実習を含む) ※集団評価結果のレポート作成			予習：教科書①p122-138, ②p498-513を読む			
12. 臨床における評価の実際、事例の探索的評価(実習を含む) ※探索的評価のレポート作成			予習：教科書②p509-518を読んでおく			
13. 事例の分析的評価(実習を含む) ※分析的評価のレポート作成			同上			
14. 精神科領域における認知症に関する評価※事例のレポート作成			予習：教科書②p603-629を読んでおく			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 30 %	■定期試験 60 %	■その他 10 %
	基準等		授業内で示されるレポート課題の内容を評価する	授業内容の範囲で出題する	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山根 寛	「精神障害と作業療法 新版」		三輪書店	2018
	能登 真一ほか	「作業療法評価学 第3版」		医学書院	2018
参考図書	富岡詔子ほか	「作業療法学全書 改訂第3版第5巻 作業治療学2 精神障害」		協同医書出版社	2017
履修要件等	精神機能作業療法評価学（2年次前期科目）を履修していることが望ましい				
研究室	1号館5階 第2共同研究室（大類） 1号館5階 第13研究室（井上）	オフィスアワー	木曜日 16:20～17:30（大類） 木曜日 12:00～13:00（井上）		

※教科書①：山根 寛「精神障害と作業療法 新版」

教科書②：能登 真一ほか：「作業療法評価学 第3版」

科目No.	SOT04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	生活環境・行為学		担当教員 E-Mail	石川 健二 / 作業療法学専攻教員 ishikawak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして生活環境や生活行為に関する基本的知識と手法について講義する					
授業内容の要約	リハビリテーションは人間の障害構造を心身機能と構造、活動、社会活動の階層で分け、それぞれの健康を維持する技術を概念的に有している。本講義では生活を構成している動作、行為の分析について知識・体験を通して学び、生活行為がイメージできることを目標とする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動作、活動、行為の概念を理解し、生活の概念を説明することができる 2. ADL・APDLの概念を理解し、説明することができる 3. 生活行為に関する医学用語を理解し、文章の中で用いることができる 					
対面授業の 進め方	講義、演習、課題により、生活についての理解を進めていく 個々の生活を構成している要素を体験させ、想像・考えることができるように進める					
遠隔授業の 進め方	Teamsを使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 生活環境・行為学とは(生活サイクル)			【田崎】	教科書を読了しておく		
2. 生活行為の基礎生活行為向上に必要な機能及び環境			【武井】	前回授業内容の理解を深めておく		
3. 生活行為に関する用具(自助具製作)			【嶋野】	前回授業内容の理解を深めておく		
4. ADLを構成する要素(1)			【白岩】	前回授業内容の理解を深めておく		
5. ADLを構成する要素(2)			【白岩】	前回授業内容の理解を深めておく		
6. ADL、APDLの評価の流れと支援の実際(1)			【石川】	前回授業内容の理解を深めておく		
7. ADL、APDLの評価の流れと支援の実際(2)			【石川】	前回授業内容の理解を深めておく		
定期試験			期末試験勉強			
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			【石川】			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	適宜、課題提出を指示する	その都度、担当教員から課題の内容、提出期限等を指示する	授業内容全般の理解度を評価する		授業態度 授業への積極性や理解度等を総合的に判断する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	濱口豊太	「日常生活活動・社会生活行為学」		医学書院	2016	
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する					
履修要件等	教科書・資料を必ず持参すること					
研究室	各講義の担当教員		オフィスアワー	授業終了後、随時、質問を受け付ける		

科目No.	SOT05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	生活環境・行為分析学		担当教員 E-Mail	石川 健二 ishikawak@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして生活環境や行為の分析に必要な知識と手法について講義する						
授業内容の要約	様々な動作・行為から成り立つ日常生活自立にむけた支援策を理解する。また、動作制限がある場合その原因を探り、可能性のある機能障害を推論し、特定するための知識手法を身につける。						
学修目標 到達目標	1. 行為の概念を理解し構成要素を抽出することができる 2. 行為を分析するなかで心身機能との関連をみつけだすことができる 3. 生活行為の視点で・テクニカルエイドの選び方使い方ができる 4. 住宅の状況や用具の使用といった環境因子の影響を予測することができる						
対面授業の進め方	講義、演習、グループワーク課題 等により、座学と実技の双方により理解を深める。						
遠隔授業の進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 生活行為のみかた①ADL基礎 作業療法の本質 生活行為動作シーケンス 構成要素 p 4-28			予習として授業計画に記載している教科書の次回予定頁の読了を求めます				
2. " ②ADLの評価 p 29-47			教科書の読了 /構成要素のプリント課題				
3. " ③ADLの治療理論 p 48-61							
4. 基本的日常生活動作の構成要素①起居動作 p 62-82							
5. " ②食事動作 p 83~103							
6. " ③整容動作 p 104-120					予習として授業計画に記載している教科書の次回予定頁の読了を求めます。 毎時間小テストを実施するので、前回授業範囲の復習をしておくこと。		
7. " ④更衣動作 p 121-138							
8. " ⑤排泄動作 p 139-157							
9. " ⑥入浴動作 p 158-170							
10. " ⑦睡眠・栄養・炊事 p 171-194							
11. " ⑧掃除・買い物・経済管理 p 195-227							
12. 生活を援助する工夫(石川)(資料)			ADL室にて自助具を調べておく				
13. 福祉用具の種類と使い方 p 292~300			学内トイレを参考に改修の工夫を考えておく				
14. 生活環境の概念と改修の考え方 p 301~306			期末試験勉強				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		■レポート 30%		■定期試験 40 %	
	基準等	■その他 %		前回講義分の小テストを毎講義前に実施する。		筆記試験を課す。レポート、授業態度など総合的に判定する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	濱口豊太	① 「日常生活活動・社会生活行為学」			医学書院	2014	
参考図書	編集委員会	テクニカルエイド生活視点で役立つ選び方使い方他 授業内で配布した参考資料			三輪書店	2014	
履修要件等	生活環境・行為学が履修済であることが望ましい						
研究室	研究科棟4階 145研究室			オフィスアワー	毎週木曜日 14:40~16:10		

科目No.	SOT09-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	高齢期作業療法学		担当教員 E-Mail	嶋野 広一 shimanok@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	介護老人保健施設に勤務した担当教員が高齢者との関りを通して、実際の臨床場面での経験を踏まえながら講義を進めます。					
授業内容の要約	高齢者に作業療法が援助できることは多い。健康な人はなるべく健康状態を保ち、障害を抱えた人は障害の影響を抑えて、意義ある人生を送ることが高齢期のあるべき姿である。この講義では障害をもった高齢者のみではなく、健康高齢者にも焦点をあてる。					
学修目標 到達目標	1. 高齢期の特徴について具体的に述べることができる。 2. 高齢者について理解し、アプローチする手段を述べるができる。					
対面授業の 進め方	高齢者について少しでも理解してもらいたい。教科書に記載されている具体例を参考に臨床場面での実例を交えながら講義を進めていきます。 板書を使った授業を行います。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業ではパワーポイントを使い、対面授業での板書形式に対応します。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 高齢社会と高齢期の課題(「高齢期作業療法学」PP8～28)				復習：高齢化についてまとめる		
2. 高齢者を取り巻く社会制度と作業療法(「高齢期作業療法学」PP29～38)				復習：社会制度についてまとめる		
3. 高齢期の特徴と疾患(「高齢期作業療法学」PP39～63)				復習：高齢期の疾患についてまとめる		
4. 認知症(「高齢期作業療法学」PP64～75)				復習：認知症についてまとめる		
5. 高齢期の作業療法評価①(「作業療法評価学」PP602～629)				復習：高齢期の作業療法評価についてまとめる		
6. 高齢期の作業療法評価②(「高齢期作業療法学」PP81～94)				復習：高齢期の作業療法評価についてまとめる		
7. 高齢期の作業療法の援助の違い(病期や場所の違い)(「高齢期作業療法学」PP95～116)				復習：高齢期の作業療法の援助の違いについてまとめる		
8. 一般高齢者や介護予防の作業療法(「高齢期作業療法学」PP117～129)				復習：介護予防についてまとめる		
9. 認知症高齢者の作業療法(「高齢期作業療法学」PP130～147)				復習：認知症についてまとめる		
10. 高齢期作業療法の実践①(健康高齢者・要支援高齢者)(「高齢期作業療法学」PP150～161)				復習：健康高齢者・要支援高齢者へのアプローチについてまとめる		
11. 高齢期作業療法の実践②(要介護者)(「高齢期作業療法学」PP162～176)				復習：要介護者へのアプローチについてまとめる		
12. 高齢期の作業療法の実践③(軽度認知症者)(「高齢期の作業療法」PP177～185)				復習：軽度認知症者へのアプローチについてまとめる		
13. 高齢期の作業療法の実践④(中等度・重度認知症者)(「高齢期の作業療法」PP186～207)				復習：中等度・重度認知症者へのアプローチについてまとめる		
14. 高齢期の作業療法の実践④(終末期)(「高齢期の作業療法」PP208～214)				復習：終末期へのアプローチについてまとめる		
14. 授業のまとめと定期試験のポイント説明				復習：前期試験対策		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 30 %	■定期試験 70 %	□その他 %
	基準等		高齢者についてのレポートを課す。	授業内容全般の理解度を定期試験にて評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	松房利憲 他	「高齢期作業療法学」第3版		医学書院	2016
	能登真一 他	「作業療法評価学」第3版		医学書院	2017
参考図書	特に指定しない				
履修要件等					
研究室	1号館2階 第24 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 10:40~12:10	

科目No.	SOT11-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次	
授業科目名	発達過程作業療法学		担当教員 E-Mail	丹葉寛之			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	療育施設で臨床経験がある教員が、実践してきた内容を講義内容に取り入れながら学生がイメージできるように講義を行う。						
授業内容の要約	発達過程に障害のある子どもたちの疾病についての知識を深めるとともに、作業療法プログラムの立案に必要な評価計画及び治療の立案ができることを目的とする。						
学修目標 到達目標	1. 発達障害の子どもたちの関わりに必要な基礎的知識を学習する 2. 疾病の特徴を学ぶとともに必要な評価方法を学習する 3. 評価結果から問題点を抽出しプログラム立案をすることができる						
対面授業の 進め方	講義を中心に進める。理解を深めるために、適宜、視聴覚教材を用いる。						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 小児の作業療法過程について、情報収集の意味			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
2. 胎児期、乳児期前半の発達について			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
3. 乳児期後半の発達について			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
4. 日常生活の発達について①(食事、更衣)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
5. 日常生活の発達について②(遊び、排泄)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
6. 脳性麻痺の評価と治療について(概論)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
7. 脳性麻痺の評価と治療について(痙直型両麻痺)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
8. 脳性麻痺の評価と治療について(痙直型四肢麻痺)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
9. 脳性麻痺の評価と治療について(痙直型片麻痺)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
10. 脳性麻痺の評価と治療について(アテトーゼ)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
11. 知的障害の作業療法評価と治療について①			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
12. 知的障害の作業療法評価と治療について②			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
13. 発達障害の作業療法評価について(自閉スペクトラム症)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
14. 発達障害の作業療法評価について(LD、ADHD)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと				
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	■定期試験 100%	☐ その他 %
	基準等					成績は定期試験のみで評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	上杉 雅之(監修), 辛島千恵子(編集)	「イラストでわかる発達障害の作業療法」		医歯薬出版		2016	
参考図書	特に指定しない						

履修要件等			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ(OT)		担当教員 E-Mail	水野 貴子・大類 淳矢 mizunot@kawasakigakuen.ac.jp oruiz@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で19年と11年の臨床経験のある教員が、その経験を生かして臨床的な作業療法評価に必要な知識と手法について講義・指導する。					
授業内容の要約	作業療法の流れを知り、対象者に適した評価計画を立て、検査・測定の実践をしながら学ぶ。また、臨床見学実習で得られた自己課題の解決策を考える。					
学修目標 到達目標	1. 検査・測定方法の実践を学ぶ 2. 自己課題を解決するための方法論を見つける 3. 作業療法評価学実習(プレ実習)に向けた準備ができる					
対面授業の 進め方	講義と演習(検査・測定の実施、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション				臨床見学実習の振り返り、自己課題の整理		
2. レクリエーション(体育祭の準備)				学生間での話し合い調整		
3. スポーツ活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク				学生間での話し合い調整		
4. 専門基礎科目(解剖学など)の復習(小テストの実施)				専門基礎科目の予習		
5. 作業療法の流れについて(レジュメの説明)				配布資料等を予め熟読しておく		
6. 各種検査・測定(脈拍・血圧測定等)				実技の復習		
7. 各種検査・測定(ROM等)				実技の復習		
8. 観察の仕方				実技の復習		
9. 面接の仕方				実技の復習		
10. 評価計画の立て方				配布資料等を予め熟読しておく		
11. 評価計画の実践(身障)				配布資料等を予め熟読しておく		
12. 評価計画の実践(精神)				配布資料等を予め熟読しておく		
13. 作業療法評価学実習(プレ実習)のガイダンス1				プレ実習の手引きを熟読しておく		
14. 作業療法評価学実習(プレ実習)のガイダンス2				プレ実習の手引きを熟読しておく		
15. 総括						
成績 評価方法	項目	■小テスト 10%	■課題・レポート 50%	□定期試験 %	■その他 40%	
	基準等	小テストの成績	課題の実施状況 レポート書類等の提出期限厳守		授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性	
教科書	特に指定しない					
参考図書	臨床実習の手引き 第5版、作業療法学専攻 臨床実習の手引き 2年次版(別冊子)					
	授業内配布資料(プレ実習の手引きなど)					
履修要件等	「臨床実習指導Ⅰ」の履修済みであること					
研究室	1号館4階 第5研究室(水野)		オフィスアワー	水曜日 12:10~12:50(水野)		
	1号館5階 第2共同研究室(大類)			木曜日 16:20~17:30(大類)		

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ (OT)		担当教員 E-Mail	水野 貴子・大類 淳矢 mizunot@kawasakigakuen.ac.jp oruiz@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		履修期間		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で19年と11年の臨床経験のある教員が、その経験を生かして臨床的な作業療法評価に必要な知識と手法について講義・指導する					
授業内容の要約	生活行為を中心とした評価の実践手順を経験し、課題を抽出するまでを学ぶ。作業療法での具体的なリスク管理に関する情報の収集や方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 生活行為を中心とした評価及び、課題抽出の重要性を理解できる 2. リスク管理が適切に行える 3. 臨床検査・測定実習に向けた準備ができる					
対面授業の 進め方	講義と演習(症例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション						
2. 評価計画の書き方1				配布資料等を予め熟読しておく		
3. 評価計画の書き方2				復習		
4. SOAPとプロセスレコードの書き方1				配布資料等を予め熟読しておく		
5. SOAPとプロセスレコードの書き方2				復習		
6. レジユメの書き方1				配布資料等を予め熟読しておく		
7. レジユメの書き方2				復習		
8. レジユメの書き方3				復習		
9. OSCEガイダンス1				配布資料等を予め熟読しておく		
10. OSCEガイダンス2				復習		
11. 臨床検査・測定実習前準備(社会人としての心得、個人情報取り扱い、施設規定の順守 対象者への接し方等)				臨床実習の手引きを予め熟読しておく		
12. 臨床検査・測定実習前準備(書類の作成方法、緊急時の対応、実習施設発表等)				臨床実習の手引きを予め熟読しておく		
13. 人体解剖学実習見学に関するオリエンテーション				配布資料等を予め熟読しておく		
14. 人体解剖学実習見学の実施				復習		
15. 臨床検査・測定実習前準備(壮行会、関係書類の作成)				臨床実習の手引きを予め熟読しておく		
成績 評価方法	項目	■小テスト %	■課題・レポート 60%	□定期試験 %	■その他 40%	
	基準等	課題の実施状況 レポート書類等の提出期限厳守		授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性		
教科書	臨床実習の手引き 第5版、作業療法学専攻 臨床実習の手引き2年次版(別冊子)					
参考図書	授業内配布資料(プレ実習の手引きなど)					
履修要件等	「臨床ゼミⅡ」が履修済みであること					
研究室	1号館4階 第5研究室(水野) 1号館5階 第2共同研究室(大類)		オフィスアワー	水曜日 12:10~12:50(水野) 木曜日 16:20~17:30(大類)		

科目No.	SCP07-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床検査・測定実習 (OT)		担当教員 E-Mail	岸村 厚志 / 作業療法学専攻教員 kishimuraa@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	3単位	後期(135h) 3週間
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、学生が担当ケースに適切な作業療法の評価技術(検査・測定)が実践模倣されているかを臨床教育実習訪問指導にて臨床実習指導者とともに状況を把握し確認・指導する。また、学生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で、複数の症例に対し、臨床評価模倣の経験を通じて学ぶ診療参加型実習についても説明・指導する。					
授業内容の要約	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設にて実習を実施する。 ・臨床の場で対象者(児)の評価法を修得し、作業療法士としての基本的な態度を学ぶ。 					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法及び作業療法士の機能と役割を理解することができる 2. 臨床場面で、対象者(児)の評価を指導者のもとで実施し、収集した情報をもとに統合と解釈し、問題点を抽出するまでとし、それらの過程上で理論と技術の修得と理解を深めることができる 3. 専門職としての認識を高めることができる 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実習にふさわしい服装で臨むこと ・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること ・連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと 					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信(症例の評価から治療計画と治療プログラムの立案)の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設で3週間の臨床実習を実施する。 ・対象者(児)の評価(情報収集、面接、観察、検査測定調査)を実施する ・収集した情報を基に問題点を抽出する(治療計画の立案は含まない) 			評価知識を修め、検査測定に関する技術を繰り返し実技練習しておくこと			
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☐ 定期試験 %
	基準等					☒ その他 100 % <ol style="list-style-type: none"> ① 臨床検査測定実習評定の結果 ② 臨床実習出席日数 ③ 実習内容(レジュメ、実習ノート・実習態度等) ④ セミナーの参加状況から総合的に評価する

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	臨床実習委員会編	「作業療法学専攻：実習の手引き」 第4版	大阪河崎リハビリテーション大学	2017
参考図書		必要に応じて紹介する		
履修要件等	実習要件2) を満たしていること			
研究室	各実習担当教員研究室	オフィスアワー	各実習担当教員 オフィスアワー参照	

科目No.	FCM05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	耳鼻咽喉科学		担当教員 E-Mail	【耳鼻】山下 大介 【咽喉】森 一功		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院にて耳鼻咽喉科の診療を行っている教員が、言語聴覚士として必要な知識の講義を行う。					
授業内容の要約	【耳鼻】言語聴覚士として、耳鼻科医とチーム医療を行う上で基礎となる専門科目である。 【咽喉】口腔咽頭の解剖と生理について説明し、その疾患について、その診断と治療を解説する。					
学修目標 到達目標	【耳鼻】1.) 耳科学の解剖・生理・疾患全般について知識を習得する。 2.) 鼻科学の解剖・生理・疾患全般について知識を習得する。 【咽喉】1.) 口腔咽頭の解剖・生理を説明できる 2.) その個々の疾患の病態、検査、診断、治療を述べることができる					
対面授業の 進め方	【耳鼻】パワーポイントを用いた講義をおこなう。 【咽喉】パワーポイントによるスライド授業をおこなう。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 耳科学 総論：解剖・生理			左記授業後、復習をする			
2. 耳科学 各論(1) 外耳・中耳疾患						
3. 耳科学 各論(2) 内耳疾患						
4. 補聴器・人工内耳						
5. 遺伝性難聴・嚥下障害・耳鼻科領域の在宅医療						
6. 鼻科学 総論：解剖・生理						
7. 鼻科学 各論 鼻副鼻腔疾患						
8. 口腔咽頭科学 総論 解剖・生理			講義の配付資料を今一度、読み直すこと。			
9. 口腔咽頭科学 各論(1) 咽頭・良性疾患			(同上)			
10. 口腔咽頭科学 各論(2) 口腔・良性疾患			(同上)			
11. 口腔咽頭科学 各論(3) 咽頭・悪性疾患			(同上)			
12. 口腔咽頭科学 各論(4) 口腔・悪性疾患			(同上)			
13. 口腔咽頭科学 各論(5) 唾液腺疾患			(同上)			
14. 気管食道科学 各論(5) 気管疾患、食道疾患			(同上)			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			【耳鼻】 授業の内容全般についての理解度を評価する 【咽喉】 授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					

参考図書	鳥山稔、田内光	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学	医学書院	
履修要件等				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	FCM06-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	臨床歯科学		担当教員 E-Mail	高坂 貴之			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	歯学部附属病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、歯・歯周組織の構造と機能、歯科疾患と治療法、および口腔ケアの方法について講義する。						
授業内容の要約	歯および口腔の機能を正常に保持することは、全身の健康維持にかかせない。本講義では、歯および歯周組織の構造、機能、口腔ケアについてのみならず、口腔と全身との関連性について学習する。						
学修目標 到達目標	1. 歯および歯周組織について説明することができる 2. 歯および歯周組織と全身との関連性を説明することができる 3. 適切な口腔ケアの実施ができる						
対面授業の 進め方	まず、歯・歯周組織の解剖学的特性を学んでもらう。 それを踏まえた上で、その管理の仕方や治療法を理解してもらおう。 口腔ケアに関しては、具体的手法についても言及する。						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 歯科医学の歴史と重要性 (教科書 pp2~6)			教科書を読んで予習・復習すること				
2. 歯・歯周組織の発生 (教科書 pp32~33)			教科書を読んで予習・復習すること				
3. 歯・歯周組織の構造 (教科書 pp13~18)			教科書を読んで予習・復習すること				
4. 歯・歯周組織の機能 (教科書 pp13~18)			教科書を読んで予習・復習すること				
5. 歯・歯周組織の疾患 (教科書 pp36~62)			教科書を読んで予習・復習すること				
6. 歯・歯周組織の治療 (教科書 pp36~62)			教科書を読んで予習・復習すること				
7. 口腔ケアに関する予防 (教科書 pp239~247)			教科書を読んで予習・復習すること				
8. 口腔ケアに関する疾患の治療 (教科書 pp239~247)			教科書を読んで予習・復習すること				
定期試験 (期末レポート)							
9. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	■定期試験 100%	☐ その他 %
	基準等					定期試験のみで成績を評価します。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	夏目 長門	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科」		医学書院	2012		
参考図書	特に指定しない						
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	FCM07-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次			
授業科目名	口腔外科学		担当教員 E-Mail	小谷 泰子 ・ 笠川 尚彦					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(16h)			
教員の実務経験と授業内容の関連	歯学部附属病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、咀嚼・嚥下を中心とする口腔機能の正常と異常について解説し、加齢や口腔中咽頭癌、脳血管障害、口唇口蓋裂などによって生じる機能障害とその評価法について講義する。								
授業内容の要約	本講義では、咀嚼・嚥下を中心とする口腔機能の正常と異常について解説し、加齢や口腔中咽頭癌、脳血管障害、口唇口蓋裂などによって生じる機能障害とその評価法、言語聴覚士の参画が期待される摂食・嚥下リハビリテーションの現状と将来的な展望について示す。特にその中で、歯科・口腔外科領域と言語聴覚士の連携について詳説する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な咀嚼・嚥下運動のメカニズムと健康における意義について理解する 2. 口腔中咽頭癌における嚥下障害の病態・治療法について理解する 3. 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科医師と言語聴覚士との連携について理解する 								
対面授業の 進め方	講義形式を中心とし、症例を教材にした討論を加える。 受講者は積極的に討論に参加し、詳細なノートを作成すること。								
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業のLIVE配信を行う。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
笠川 尚彦 担当分									
1. 咀嚼機能のメカニズムと脳・全身への影響			左記授業後、復習する。						
2. 咀嚼・嚥下における舌のはたらき									
3. 嚥下障害① 口腔癌による咀嚼・嚥下障害									
4. 嚥下障害② 言語聴覚士と歯科医師の連携									
小谷 泰子 担当分									
5. 口蓋裂と鼻咽腔閉鎖不全			左記授業後、復習する。						
6. 嚥下障害③ 在宅症例での取り組み、チームアプローチについて									
7. 嚥下障害④ 嚥下内視鏡とは									
8. 口腔機能の障害（ドライマウス・睡眠時無呼吸など）									
定期試験（期末レポート）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	15%	■定期試験	80%	■その他	5%
	基準等			提出物で評価する。		定期試験にて、授業の理解度を評価する。		授業への参加度で評価する。	
教科書	著者	タイトル				出版社	発行年		
	道健一	「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学」				医歯薬出版			
	溝尻源太郎 熊倉勇美	「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害」				医歯薬出版			
参考図書	前田芳信 阪井丘芳	「摂食・嚥下機能改善と装置の作り方 超入門」				クインテッセンス出版			
履修要件等									
研究室	1号館1階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。				

科目No.	FPS02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	生涯発達心理学		担当教員 E-Mail	伊藤 一美		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必修	2単位	前期(46h)
教員の実務経験と授業内容の関連	小児を対象とする保健センター・発達支援施設・医療機関にて勤務経験のある教員が生涯を通じた発達について講義する。					
授業内容の要約	乳幼児期から老年期まで周りの世界とかかわりながら人がいかに育つか、一生涯の発達を講義する。					
学修目標 到達目標	1. 乳幼児期から老年期まで、認知・言語・社会性・パーソナリティの生涯発達過程を理解する。 2. 生涯発達心理学の知識を、言語聴覚療法の臨床場面での援助に活用する視点や方法を知る。					
対面授業の 進め方	今年度は大学の都合で、対面授業は実施しない。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業では Teams を使用し、対面授業同様、①ワーク、②講義を基本とし、アクティブラーニングの手法を取り入れた講義を行う。各講義終了時に振り返りの時間を設定し、課題の提出を求める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 乳児期① 世界を知りはじめる 1章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
2. 乳児期② 人との関係のはじまり 2章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
3. 幼児期① 今、ここの世界からイメージとことばの世界へ 3章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
4. 幼児期② 自己の育ちと他者の関係 4章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
5. 児童期① 思考の深まり 5章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
6. 児童期② 集団の中で育まれる社会性 6章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
7. 青年期① 自分らしさへの気づき 7章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
8. 青年期② 他者を通して自分を見る 8章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
9. 成人期 関係の中でのとまどいと成熟 9章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
10. 老年期 人生の振り返り 10章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
11. 乳幼児期の発達課題(グループワーク) 1・2章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
12. 幼児期の発達課題(グループワーク) 3・4章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
13. 児童期の発達課題(グループワーク) 5・6章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
14. 青年期の発達課題(グループワーク) 7・8章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
15. 成人期の発達課題(グループワーク) 9章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
16. 老年期の発達課題(グループワーク) 10章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
17. 文化と発達① 11章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
18. 文化と発達② 11章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
19. 教育と発達① 12章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
20. 教育と発達② 12章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
21. さまざまな発達理論 教科書全章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
22. 生涯発達の視点 教科書全章			講義内容を復習しノートにまとめる。			
定期試験(期末レポート)						
23. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)			講義内容の復習			
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト 10%	☐ レポート 0%	☒ 定期試験 90%	☐ その他 0%	
	基準等	各講義終了時の課題を評価に含む。		教科書と配布資料から出題する。		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	藤村宣之(編著)	いちばんはじめに読む心理学の本 3 発達心理学	ミネルヴァ書房	2019年(第 二版)
参考図書				
履修要件等	「心理学」が履修済みであることが望ましい。			
研究室		オフィスアワー	質問等はメールにて受け付ける。	

科目No.	FSL02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	言語学		担当教員 E-Mail	新田 香織		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	2単位	前期(60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	「言語」に含まれる幅広い知識について概観する。「音」「単語」「文」から「文化」「社会」へと目を広い世界に広げつつ解説する。音韻論、形態論、統語論、語用論などをカバーし、後半は学んだ理論を言語聴覚士としての実践に結びつけ、グループ発表を中心として行う。同時に国家試験対策も実施する。					
学修目標 到達目標	1. 言語学のそれぞれの分野についての理解ができる 2. 言語学で学んだ知識と現場での事象との関連付けができる 3. 言語学の知識と言語聴覚士としての将来の実践に向けての応用ができる					
対面授業の 進め方	講義とワークショップスタイルのバランスを取りながら理解を深められるように工夫する。毎回小テストとグループディスカッションがあるので、予習・復習をしっかりとすること。興味のあるトピックの情報収集を積極的に行うこと。グループでの口頭発表は、pptを使用する。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 言語学とは？			予習：プリント			
2. 音声学(1) 第1,2講			復習：英語と日本語の音素			
3. 音声学(2) 第3,4,5講			予習：プリント			
4. 音韻論 第6,7,8講			復習：調音方法と調音点、音素と異音			
5. 形態論(1) 第9,10講			予習：プリント			
6. 形態論(2) 第10講			復習：音素と形態素			
7. 形態論(3) 第11講			予習：プリント			
8. 統語論(1) 第12,13講			復習：異形態、語形成			
9. 復習セッション(1)			予習：プリント			
10. 統語論(2) 第14講			復習：品詞、ツリーダイアグラム			
11. 統語論(3) 第15,16講			予習：プリント			
12. 意味論(1) 第17講			復習：モダリティ、アスペクト、意味役割			
13. 意味論(2)・語用論(1) 第18,19講			予習：プリント			
14. 語用論(2) 第20講			復習：意味論と語用論の違い			
15. 復習セッション(2)			予習：プリント			
16. 中間テスト			復習：テスト内容の振り返り			
17. 前半のリフレクション・プレゼンテーション準備			予習：プリント			
18. 社会言語学など 第21,22,23講			復習：教科書全体の復習			
19. プレゼンテーション準備			予習：発表準備			
20. 国家試験対策(1)			復習：授業で扱った問題の復習			
21. 発表(1)			予習：プリント			
22. 発表(2)			復習：授業で扱った問題の復習			
23. 国家試験対策(2)			予習：プリント			
24. 国家試験対策(3)			復習：授業で扱った問題の復習			
25. 国家試験対策(4)			予習：プリント			
26. プレゼンテーション評価と振り返り			復習：教科書・プリント総復習			

27. 記述式試験問題		予習：			
28. 記述式問題振り返り		復習：教科書・プリント総復習			
. 定期試験（マーク式期末試験）					
29. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）(1)					
30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）(2)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30 %	□レポート %	■定期試験 40 %	■その他 30 %
	基準等	毎週の予習（プリントの空欄に記入）、毎週の小テスト、中間テスト。60 % 以上の正答率を求める。		記述式期末問題とマーク式期末試験の2種類あり。平均して60 %以上の正答率を求める。	プレゼンテーションの準備、グループ活動、プレゼンテーション本番を評価。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	佐久間ほか	「言語学入門 これから始める人のための入門書」		研究社	2004
参考図書	斉藤純男	言語学入門		三省堂	2010
履修要件等	特になし。（音声学の単位を取得しておくことが望ましい。）				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、または email で質問を受け付ける。	

科目No.	FSL04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	言語発達学		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は大阪府下の保育所、幼稚園、小・中学校の巡回相談を行っている。定型発達を示す子どもの日常の活動を紹介しながら、学習を進めていく。						
授業内容の要約	定型発達児が音声言語の何を(what)、どのように(how)獲得していくかを説明する。また、書字言語の読字と書字を習得するプロセスやそれを支える諸機能について説明する。						
学修目標 到達目標	1. 日本語の特徴が説明できる 2. 言語発達を音韻論・意味論・統語論・語用論の側面から分析・評価できる 3. さまざまな言語獲得理論が説明できる 4. 音声言語および書字言語の発達段階が説明できる						
対面授業の 進め方	「〇歳になると〇〇ができる」といった機械的な記憶をするのではなく、発達の連続的プロセスを言語的側面から講義していく。講義は、配布するプリントと教科書を用いるので、指定された予習と復習をしておくこと。						
遠隔授業の 進め方	「〇歳になると〇〇ができる」といった機械的な記憶をするのではなく、発達の連続的プロセスを言語的側面から講義していく。講義は、配布するプリントと教科書を用いるので、指定された予習と復習をしておくこと。教科書に出てくるわからない語彙は調べて講義に臨みたい。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 導入一言語発達研究の特徴			2~5 ページの復習、32~39 ページの予習				
2. 何を(what)獲得するのか—音韻論的側面			本講義の復習、32~39 ページの予習				
3. 何を(what)獲得するのか—音韻論的側面			本講義の復習、36~39 ページの予習				
4. 何を(what)獲得するのか—意味論的側面			本講義の復習、40~41 ページの予習				
5. 何を(what)獲得するのか—意味論的側面			本講義の復習、42~45 ページの予習				
6. 何を(what)獲得するのか—統語論的側面			本講義の復習、46~49 ページの予習				
7. 何を(what)獲得するのか—語用論的側面			50~57 ページの予習・復習				
8. 何を(what)獲得するのか—語用論的側面			50~57 ページの復習				
9. どのように(how)獲得するのか—理論の変遷			6~9 ページの予習・復習				
10. どのように(how)獲得するのか—理論の変遷			6~9 ページの復習				
11. 読字の発達			58~61 ページの予習・復習				
12. 書字の発達			58~61 ページの復習				
13. 読字・書字を支える諸機能の発達			本講義の復習				
14. 脳の機能と言語の関係			本講義の復習、過去の国家試験問題を解く				
定期試験(期末レポート)							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 90%	■その他 10%
	基準等					授業内容についての理解度を評価する。	授業中に予習・復習の状況を口頭にて質疑応答し理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	岩立志津夫・小椋たみ子編	「よくわかる言語発達」		ミネルヴァ書房	2005		
参考図書	小林春美・佐々木正人編	「新・子どもたちの言語獲得」		大修館書店	2008		

履修要件等	「生涯発達心理学」「言語学」が履修済みであることが望ましい。		
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 10:40~12:10

科目No.	FSL05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	聴覚心理学		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博 umayaharak@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)	
教員の実務経験と 授業内容の関連							
授業内容の要約	聴覚検査や聴覚障害者の聞こえを理解するために必要な聴覚心理学の基本的知識について学習し、音や音声の聞こえについて体験を通して理解を深める。						
学修目標 到達目標	1. 音の大きさ・高さ・音色など音の心理的性質が理解できる 2. 音や音声について、聴覚障害者の聞こえかたの特徴が理解できる						
対面授業の 進め方	講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。						
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 音の性質 (教科書 p.28~33)			復習：授業の範囲をまとめる				
2. 音の大きさ① (教科書 p.34~37)			復習：授業の範囲をまとめる				
3. 音の大きさ② (教科書 p.34~37)			復習：授業の範囲をまとめる				
4. 騒音計の使い方			復習：授業の範囲をまとめる				
5. 音の高さ① (教科書 p.37~38)			復習：授業の範囲をまとめる				
6. 音の高さ② (教科書 p.37~38)			復習：授業の範囲をまとめる				
7. マスキングと臨界帯域 (教科書 p.38~39)			復習：授業の範囲をまとめる				
8. 音色とスペクトル (教科書 p.40~42)			復習：授業の範囲をまとめる				
9. 短音の知覚			復習：授業の範囲をまとめる				
10. 時間分解能と周波数選択性 (教科書 p.54~57)			復習：授業の範囲をまとめる				
11. 両耳聴と音源定位 (教科書 p.40~41)			復習：授業の範囲をまとめる				
12. 音声の知覚 (教科書 p.42~44)			復習：授業の範囲をまとめる				
13. 環境と聴覚①			復習：授業の範囲をまとめる				
14. 環境と聴覚②			復習：授業の範囲をまとめる				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	中村ら (編)	「聴覚障害学 第3版」		医学書院	2021		
参考図書	B.C.J.ムーア	「聴覚心理学概論」		誠信書房	1994		
	吉田 友敬	「言語聴覚士の音響学入門 2訂版」		海文堂出版	2020		

	今泉 敏	「言語聴覚士のための音響学」	医歯薬出版	2007
	青木 直史	「ゼロからはじめる音響学」	講談社	2014
履修要件等				
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00	

科目No.	FSL06-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	音声言語聴覚医学 I		担当教員 E-Mail	森 一功		
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間	
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	耳鼻咽喉科医師としての39年におよぶ臨床経験に基づき、音声言語医学について講義する。					
授業内容の要約	言語聴覚士として臨床で担当することになる、音声、言語、嚥下について講義をおこなう。これらに参与している器官の解剖と生理について説明し、その検査法、病態、治療法について解説する。講義にあたっては、視覚材料や音声材料を多用する。					
学修目標 到達目標	1. QOLに直結する発声、構音、嚥下に関する器官の解剖・生理を説明できる 2. 発声、構音、嚥下を障害する疾病、その治療法を述べることができる					
対面授業の 進め方	パワーポイントによるスライド授業。実際の臨床での咽喉頭内視鏡ビデオや手術ビデオを見る。臨床で遭遇することはマレと思われるような症例(小生が過去2回しか診たことがない、とか。しかし、国家試験に出題されるのだ!!)のビデオも多々あるので、見ないと、もったいない。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画				授業時間外に 必要な学修	30分以上	
1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 総論				講義の配付資料を今一度、読み直すこと。		
2. 頭頸部外科学 各論		頭頸部癌の一般論、放射線治療、再建外科		(同上)		
3. 喉頭科学 総論 (1)		喉頭の解剖、生理、ヒト摘出喉頭の観察実習		(同上)		
4. 喉頭科学 総論 (2)		発声のメカニズムの詳細		(同上)		
5. 喉頭科学 総論 (3)		声の検査		(同上)		
6. 喉頭科学 各論 (1)		喉頭の良性疾患 (1) 炎症、良性腫瘍		(同上)		
7. 喉頭科学 各論 (2)		喉頭の良性疾患 (2) 声帯麻痺、異物、外傷、先天異常		(同上)		
8. 喉頭科学 各論 (3)		喉頭の悪性疾患		(同上)		
9. 喉頭科学 各論 (4)		まれな発声障害、音声治療、性同一性障害の音声		(同上)		
10. 言語医学 総論		構音に関する臨床解剖、構音のメカニズム		(同上)		
11. 言語医学 各論		器質性構音障害をきたす疾患		(同上)		
12. 気管食道科学 各論 (1)		嚥下 (1) 嚥下のメカニズム		(同上)		
13. 気管食道科学 各論 (2)		嚥下 (2) 誤嚥をきたす疾患		(同上)		
14. 気管食道科学 各論 (3)		嚥下 (3) 誤嚥の治療法、耳鼻咽喉科疾患と誤嚥		(同上)		
定期試験						
15. 気管食道科学 各論 (4)		気道異物、食道異物、気管切開		(同上)		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考図書	岩田 ほか	「臨床神経学・高次脳機能障害学」		医学書院	2006	

履修要件等			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	FSL07-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	音声言語聴覚医学Ⅱ		担当教員 E-Mail	大谷真喜子 他		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	聴器、平衡覚器官の構造、生理を理解し、聴覚障害を伴う疾患について理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 言語聴覚士として必要な解剖、生理、疾患について幅広い知識を正確に習得する 2. 正しい解剖学的知識より疾患を論理立てて理解する 3. 医療現場における言語聴覚士の役割を理解する					
対面授業の 進め方						
遠隔授業の 進め方	teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 外耳、中耳、顔面神経、内耳の解剖			左記授業後、復習をする			
2. 画像検査						
3. 聴覚生理						
4. 聴力検査						
5. 前庭生理						
6. 難聴						
7. 幼児難聴						
8. 人工内耳						
9. 補聴器						
10. めまいの検査						
11. 外耳、中耳、顔面神経、内耳の疾患						
12. 総括①						
13. 総括②						
14. 総括③						
定期試験(期末レポート)						
15. 定期試験フィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					□その他 %
授業の内容全般についての理解度を評価する。						
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	鳥山稔、田内光	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学		医学書院		
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
研究室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SHB01-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学 I		担当教員 E-Mail	芦塚あおい・上田 有紀人		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学		必修	2単位	後期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	多くの病院等において実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、高次脳機能障害について、基本的理解と検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	高次脳機能障害を理解し、評価・診断・リハビリテーションについて学ぶ。また動画を用いて、実際の症状をみて、より理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 高次脳機能障害患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる 2. 高次脳機能障害の各障害について定義・症状・病巣・発現機序を理解することができる 3. 高次脳機能障害の各障害に対する検査・評価・診断ができる					
対面授業の 進め方	講義、小テスト、演習。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 高次脳機能障害とは				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
2. 記憶障害の定義・症状				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
3. 記憶障害の病巣・発現機序				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
4. 記憶障害の評価・診断1				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
5. 記憶障害の評価・診断2				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
6. 記憶障害のリハビリテーション				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
7. 認知症の定義・症状				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
8. 認知症の病巣・発現機序				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
9. 認知症の評価・診断1				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
10. 認知症の評価・診断2				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
11. 認知症のリハビリテーション				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
12. 遂行機能障害の定義・症状				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
13. 遂行機能障害の病巣・発現機序				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		
14. 遂行機能障害の評価・診断				予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること		

15. 遂行機能障害のリハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
16. 中間試験	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
17. 失認の定義・症状	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
18. 失認の病巣・発現機序	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
19. 失認の評価・診断	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
20. 半側空間無視の定義・症状	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
21. 半側空間無視の病巣・発現機序	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
22. 半側空間無視の評価・診断	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
23. 失行の定義・症状・病巣・発現機序	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
24. 失認の評価・診断	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
25. 失認・失行・半側空間無視のリハビリテーション リハビリテーション	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
26. 注意機能障害	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
27. 前頭葉機能障害	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
28. 外傷性脳損傷による高次脳機能障害	予習:教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習:ノートにまとめ、小テストに備えること				
29. 復習					
定期試験 (期末レポート)					
30. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示する課題・小テストの結果を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代監修	「高次脳機能障害学 第3版」		医学書院	2015
参考図書	石合純夫	「高次脳機能障害学 第3版」		医歯薬出版	2019
	平山和美	高次脳機能障害の理解と診察		中外医学社	2018
履修要件等	予習・復習は必須。授業内に紹介する参考文献は積極的に購入および習得することが望ましい				
研究室	(芦塚) 1号館4階 第6研究室 (上田) 1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00 毎週木曜日 12:10~13:00		

科目No.	SLD02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	言語発達障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 takahashiy@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害		必修	2単位	後期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は、保育所、幼稚園、小・中・特別支援学校において巡回相談を行っている。そこで出会う発達に障害のある子どもたちの評価や指導について説明を行う。					
授業内容の要約	知的能力障害、自閉スペクトラム症およびその周辺領域の発達障害（特異言語発達障害、ADHDなど）の原因、症状、検査、評価について解説する。また、評価方法の演習を行う。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語発達障害の原因を理解する 2. 言語発達障害の心理・教育的検査が正しく実施できる 3. 言語発達障害の心理・教育的検査の結果、診断と評価ができる 4. 言語発達障害児の症状と、観察のポイントを理解する 					
対面授業の 進め方	前半は知的能力障害、自閉スペクトラム症とその周辺領域の発達障害について正しく理解できるよう座学中心の講義を行う。後半は検査用具を用いて評価の演習を行う。					
遠隔授業の 進め方	前半は知的能力障害、自閉スペクトラム症等の発達障害について正しく理解できるよう講義を行う。後半は知能検査を実施するが、検査用具が使えない場合は、結果からの考察を深める。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 障害の定義、社会的な障害（歴史の変遷）						
2. 知的障害の原因 遺伝子病・配偶子病					「小児科学」と関連させて復習	
3. 知的障害の原因 遺伝子病・配偶子病					「小児科学」と関連させて復習	
4. 知的障害の原因 胎芽期・胎児期の障害					講義の復習	
5. 知的障害の原因 胎児期・周産期の障害					講義の復習	
6. 知能とは何か					「学習・認知心理学」と関連させて復習	
7. 知能を生み出し・支える条件					「学習・認知心理学」と関連させて復習	
8. 知的障害児の早期発見のための検査法、知的障害児の言語特徴					講義の復習	
9. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状					講義の復習	
10. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状					講義の復習	
11. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状					講義の復習	
12. 自閉症の歴史の変遷、定義、症状					過去の国家試験問題を解いてみる	
13. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状					講義の復習	
14. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状					講義の復習	
15. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状					講義の復習	
16. 学習障害の歴史の変遷、定義、症状					過去の国家試験問題を解いてみる	
17. 発達障害の定義、症状					講義の復習	
18. 発達障害の定義、症状					講義の復習	
19. 発達障害の定義、症状					講義の復習	
20. 発達障害の定義、症状					過去の国家試験問題を解いてみる	
21. 知能について、心理・教育的検査の概要（導入）					講義の復習	
22. 心理・教育的診断のためのスクリーニングテストの解説と演習					検査手順を覚える	
23. 心理・教育的診断のためのスクリーニングテストの解説と演習					検査の練習	
24. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの実施手順					検査の練習	
25. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの実施手順					検査の練習	
26. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの実施手順					検査の練習	
27. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの結果の解釈					事例から検査結果を分析・考察する	
28. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの結果の解釈					事例から検査結果を分析・考察する	

29. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-IVの結果の解釈		事例から検査結果を分析・考察する			
定期試験 (期末レポート)					
30. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90 %	■その他 10 %
	基準等			授業内容の理解度を評価する。	演習中の参加状況を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代監修 玉井ふみ・深浦順一編集	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」第2版		医学書院	2015
参考図書	松本治雄・後上鉄夫編著	「言語障害 事例による用語解説」		ナカニシヤ出版	2000
	小野次朗他編	「よくわかる発達障害」		ミネルヴァ書房	2007
履修要件等	「生涯発達心理学」「言語発達学」が履修済みであることが望ましい。				
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 10:40~12:10		

科目No.	SHD02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次	
授業科目名	聴覚障害のコミュニケーション学		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博 umayaharak@kawasakigakuen.ac.jp			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	前期(16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、聴覚障害児者とのコミュニケーション方法について授業を行う。						
授業内容の要約	聴覚障害者(児)のコミュニケーション方法について、補聴器及び人工内耳装用による音声言語手段や読話・筆談などの視覚的手段、および手話言語についての理解を深める。						
学修目標 到達目標	1. 聴覚障害者(児)のコミュニケーション方法のそれぞれの特徴が理解できる 2. コミュニケーション方法の体験を通し、聴覚障害者(児)に対する基本的な対応ができる						
対面授業の 進め方	講義とコミュニケーション方法についての実技学習を行う。						
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義とコミュニケーション方法についての実技学習を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 聴覚障害者(児)のコミュニケーション方法			復習: 授業の内容をまとめること				
2. 手話によるコミュニケーション1 (指文字)			復習: 実技の内容を復習すること				
3. 手話によるコミュニケーション2 (あいさつ・自己紹介)			復習: 実技の内容を復習すること				
4. 手話によるコミュニケーション3 (医療に関する手話)			復習: 実技の内容を復習すること				
5. 補聴器・人工内耳などの聴覚補償とコミュニケーション			復習: 実技の内容を復習すること				
6. 読話によるコミュニケーション			復習: 実技の内容を復習すること				
7. 筆談によるコミュニケーションと情報保障			復習: 実技の内容を復習すること				
定期試験							
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)							
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☐ レポート	%	☒ 定期試験 100%	☐ その他 %
	基準等					手話読取試験および筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
			授業時にプリントを配布				
参考図書	中村ほか(編)	「聴覚障害学 第3版」			医学書院	2021	
	一番ヶ瀬康子(編)	「聴覚・言語障害者とコミュニケーション 新訂版」			中央法規出版	2010	
履修要件等							
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00			

科目No.	SHD03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	小児聴覚障害診断学		担当教員 E-Mail	廣瀬 宜礼		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	聴覚障害児へ(リ)ハビリテーションと係わりについて学ぶ。聴覚言語学習の指導法、各種コミュニケーション方法を用いた言語指導、養育指導などについて講義や演習を交えながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 小児聴覚障害の評価や診断に基づく(リ)ハビリテーションについて理解できる 2. 聴覚障害児の(リ)ハビリテーション計画を立案・実施(演習)できる 3. 指導教材や器具等を作成できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントによる講義で教科書と配付資料を併用する。聴覚と小児の発達と耳鼻科領域の知識を復習しておく。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業をLIVE配信にて、対面授業と同様の内容・形式で行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 聴覚障害の概要 (教科書 P2~14・プリント)				復習を30分		
2. 聴覚の発生・構造 (教科書 P46~57・プリント)				復習を30分		
3. 聴覚の構造と機能 伝音系・感音系疾患1 (教科書 P58~61・プリント)				復習を30分		
4. 聴覚の構造と機能 伝音系・感音系疾患2 (教科書 P61~71・プリント)				復習を30分		
5. 聴覚の構造と機能 伝音系・感音系疾患3 (教科書 P61~71・プリント)				復習を30分		
6. 遺伝性難聴 (教科書 P63~65・プリント)				復習を30分		
7. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 1 (教 P4~7・プリント)				復習を30分		
8. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 2 (教 P116~117・プリント)				復習を30分		
9. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 3				復習を30分		
10. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達 4 まとめ				復習を30分		
11. 小児聴力の評価と診断 (ABR・OAE・新生児聴覚スクリーニング) (教科書 P114~127・プリント)				復習を30分		
12. 小児聴力の評価と診断 (幼児聴力検査・健診) (教科書 P114~127・プリント)				復習を30分		
13. 小児人工聴覚器 (教科書 P162~197・プリント)				復習を30分		
14. 特異な聴覚障害 (APD・オーディトリニューロパシー) (教科書 P347~350・プリント)				復習を30分		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(まとめと国家試験のポイントを見据える)						
成績評価方法	項目	■小テスト 30%	■課題・レポート	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内の小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	藤田郁代監修	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版		医学書院	2021	
参考図書	宇佐美真一	「きこえと遺伝子」第2版		金原出版	2016	
	立木 孝	聴覚検査の実際 第3版		南山堂	2011	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SHD04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	成人聴覚障害診断学		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博 umayaharak@kawasakigakuen.ac.jp		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、成人聴覚障害者の評価方法について授業を行う。					
授業内容の要約	成人聴覚障害者の障害状況を知り、障害軽減・解消のための対策を考え、社会参加を促すための方法を考え、学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の聴覚障害の種類と原因が理解できる 2. 成人の聴覚障害の評価の方法が理解できる 3. 成人聴覚障害者の心理とコミュニケーション方法が理解できる 					
対面授業の 進め方	教科書にそって、講義を中心に進める。検査、評価方法について実技を適宜行う。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、教科書にそって、講義を中心に進める。検査、評価方法についての実技は動画の視聴を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 聴覚の機能と聴覚障害 (障害が生じた時期と現在のライフステージ) (教科書 p.7~14)				復習：授業の範囲をまとめる		
2. 成人聴覚障害の種類と原因① (教科書 pp.58~66)				復習：授業の範囲をまとめる		
3. 成人聴覚障害の種類と原因② (教科書 pp.58~66)				復習：授業の範囲をまとめる		
4. 聴覚障害者のリハビリテーション (教科書 pp.14~26)				復習：授業の範囲をまとめる		
5. 成人期の聴覚障害の特徴 (教科書 pp.206~209)				復習：授業の範囲をまとめる		
6. 聴覚検査 (教科書 pp.74~108)				復習：授業の範囲をまとめる		
7. 聴覚の評価 (教科書 pp.210~213)				復習：授業の範囲をまとめる		
8. 質問紙等によるコミュニケーション評価 (教科書 pp.213, 218)				復習：授業の範囲をまとめる		
9. 成人聴覚障害者の心理社会面の評価 (教科書 pp.213~214)				復習：授業の範囲をまとめる		
10. コミュニケーション方法の評価① (教科書 pp.215~218)				復習：授業の範囲をまとめる		
11. コミュニケーション方法の評価② (教科書 pp. 215~218)				復習：授業の範囲をまとめる		
12. コミュニケーション方法の評価③ (教科書 pp. 215~218)				復習：授業の範囲をまとめる		
13. 先天性聴覚障害者と日本語運用力の評価 (教科書 pp.217)				復習：授業の範囲をまとめる		
14. ニーズの確定と目標設定 (教科書 pp.218~221)				復習：授業の範囲をまとめる		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☐ レポート %	☒ 定期試験 100 %	☐ その他 %	
	基準等			筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	中村ら (編)	「聴覚障害学 第3版」		医学書院	2021	
参考図書	喜多村健ほか	「言語聴覚士のための聴覚障害学」		医歯薬出版	2002	
	山田弘幸 (編)	「改訂聴覚障害II - 臨床編」		建帛社	2008	

履修要件等	「聴力検査法」を履修していることが望ましい。		
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床ゼミⅡ (ST)		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博・芦塚 あおい 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	実習時に必要な簡単な検査の実技や、介助方法などを学習する。					
学修目標 到達目標	1. 課題を自分で調べ、まとめることができる 2. 自分が調べたこと、まとめたことを分かりやすく伝えることができる 3. 実習時に必要な検査や介助等を正しく行うことができる					
対面授業の 進め方	提示された項目について、調べてまとめ、発表を行う。 実技練習も含む。					
遠隔授業の 進め方	課題を配信し、office365 teams を用いて発表を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション				復習：授業の趣旨を理解すること		
2. 脈拍について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
3. スポーツ活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク						
4. 脈拍についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
5. 呼吸・最長発声持続時間について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
6. 呼吸・最長発声持続時間についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
7. 車いすの扱い・車いす使用者の介助について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
8. 車いすの扱い・車いす使用者の介助についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
9. 血圧について調べる ①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
10. 血圧についての発表と実技 ②				復習：今日の内容についてまとめる		
11. 特別支援教育について調べる ①				復習：今日の内容についてまとめる		
12. 特別支援教育について調べる ②				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
13. フリートークの話題について調べる				復習：今日の内容についてまとめる		
14. フリートークの話題 ② 支援学校見学準備				復習：支援学校見学の諸注意をまとめる		
15. 総括及びフィードバック(全講義のふりかえり)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	■レポート 80%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	調べたことの発表内容等について評価する。		実技を行ったことについて毎回レポートを課す。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		特になし				
参考図書		特になし				
履修要件等						
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SCP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ (S T)		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博・芦塚 あおい 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・福祉施設等で言語聴覚士として勤務した経験から、臨床基礎実習に向けて必要な基礎的知識・観察技術に関する授業を行う。					
授業内容の要約	臨床基礎実習に向け、これまでに履修した言語聴覚障害、摂食嚥下障害についての基礎的知識等をベースに専門職としての視点で観察記録を作成する					
学修目標 到達目標	1. 対象児・者の全体像、症状および訓練の観察・記録方法を修得する 2. 専門用語を用いて観察記録が書ける 3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害の特徴を理解し、鑑別できる					
対面授業の 進め方	言語聴覚学専攻教員が各自の専門分野を分担して学習を進める。 臨床基礎実習を念頭におき、積極的に学習すること。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 観察記録の書き方(総論)			復習: 今日の内容をまとめる			
2. 観察記録の書き方(失語症・高次脳機能障害 ①)			復習: 今日の内容をまとめる			
3. 観察記録の書き方(失語症・高次脳機能障害 ②)			復習: 今日の内容をまとめる			
4. 観察記録の書き方(失語症・高次脳機能障害 ③)			復習: 今日の内容をまとめる			
5. 観察記録の書き方(構音障害・音声障害①)			復習: 今日の内容をまとめる			
6. 観察記録の書き方(構音障害・音声障害②)			復習: 今日の内容をまとめる			
7. 観察記録の書き方(嚥下障害)			復習: 今日の内容をまとめる			
8. 観察記録の書き方(小児)			復習: 今日の内容をまとめる			
9. 解剖学実習見学事前学習*			復習: 今日の内容をまとめる			
10. 解剖学実習見学*			復習: 今日の内容をまとめる			
11. 臨床基礎実習準備①			復習: 今日の内容をまとめる			
12. 臨床基礎実習準備②			復習: 今日の内容をまとめる			
13. 臨床見学 ①* (特別支援学校見学) (9月中)			復習: 今日の内容をレポートにまとめる			
14. 臨床見学 ②* (特別支援学校見学) (9月中)			復習: 今日の内容をレポートにまとめる			
15. 臨床見学 ③* (クリニック見学)			復習: 今日の内容をレポートにまとめる			
*見学日時等は実習先と調整のうえ決定する。						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト %	☒ レポート 100%	☐ 定期試験 %	☐ その他 %	
	基準等	臨床見学についてのレポートを課す。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻:実習の手引き」					
参考図書	藤田郁代ほか	「言語聴覚障害学概論 第2版」		医学書院	2019	
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」		医歯薬出版	2018	
履修要件等	「臨床ゼミⅡ」が履修済であること					
研究室	1号館5階 第19研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00		

科目No.	SCP07-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次			
授業科目名	臨床基礎実習 (S T)		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博・芦塚 あおい 言語聴覚学専攻教員					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期(40h) 1週間			
教員の実務経験と 授業内容の関連									
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を見学し、対象児・者に対する言語聴覚士の基本的態度、ニーズの把握とその解決に必要な支援の方法、関連職種の職務内容等の概略を学ぶ。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション従事者としての職責を自覚し指導者、対象児・者に対する基本的態度を身につける 2. 医療・介護・福祉・教育機関の概要とそこでの言語聴覚士の職務内容を理解する 3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害のうち主要なものについて、その特徴を理解し鑑別できる 4. 対象児・者の全体像、症状および訓練を観察し、症状や反応などが記録できる 5. 関連職種の職務内容の概要を知り、職種間連携について理解する 								
対面授業の 進め方	<p>実習日誌は実習中毎日作成・提出し指導言語聴覚士の校閲・指導を受ける。実習終了時は一括して大学に提出する。</p> <p>実習終了時は実習報告レポート等を作成し、実習指導者と大学に提出する。</p> <p>大学において実習報告会で発表する。</p>								
遠隔授業の 進め方									
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
【臨床基礎実習】 ・医療・介護・福祉・教育機関において、見学・観察・記録・考察を行い、実習指導者の指導・助言を受ける。 【臨床基礎実習報告会】 ・実習内容の記録、目標に対する結果、考察、今後の課題等をレポートにまとめ、報告会で発表する。 ・相互の実習体験を共有し、臨床評価実習の基盤とする。			実習前：臨床実習に必要な準備 実習中：観察した症例の記録、不明な点を調べる 実習後：実習報告会の準備等						
成績評価方法	項目	☐ 課題・小テスト	%	☒ レポート	50%	☐ 定期試験	%	☒ その他	50%
	基準等			提出物(必要書類・日誌・レポート・実習報告書等)				実習前指導・実習中・実習報告会における出席・学習の状況、実習指導者による評価等を総合する。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」								
参考図書	藤田郁代ほか	「言語聴覚障害学概論 第2版」			医学書院		2019		
	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」			医歯薬出版		2018		

履修要件等	実習要件を満たしていること。「臨床ゼミⅡ」「臨床実習指導Ⅱ」が取得できていること。		
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00